

2020年3月期 第2四半期決算説明会



扶桑化学工業株式会社

2019年11月7日
東証第一部（4368）



I. 2020年3月期第2四半期 決算概要

取締役 管理本部長

杉田 真一

II. 事業の概況

■ ライフサイエンス事業

取締役 ライフサイエンス事業部長 梶本 源樹

■ 電子材料および機能性化学品事業

常務取締役 電子材料事業部長 政氏 晴生

III. 2020年3月期 業績予想

代表取締役社長

中野 佳信

I . 2020年3月期第2四半期決算概要

2020年3月期第2四半期（累計）決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	203.3	213.1	△9.7	△4.6%	210.0	△6.6	△3.2%
営業利益	43.6	52.4	△8.7	△16.8%	38.5	+5.1	+13.4%
経常利益	44.0	56.2	△12.1	△21.7%	39.0	+5.0	+12.9%
当期純利益	30.1	38.8	△8.7	△22.4%	26.5	+3.6	+13.7%
償却前営業利益	64.3	62.8	+1.5	+2.4%	60.0	+4.3	+7.2%
一株当たり 当期純利益	84.8 円	109.3 円	△24.5 円	△22.4%	74.6 円	+10.2 円	+13.7%

＊ 半期決算における過去最高の償却前営業利益を達成

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：億円)		当期実績	前期実績	前年同期比	
				増減額	増減率
ライフサイエンス事業	売上高	123.2	128.7	△5.4	△4.2%
	営業利益	23.5	16.2	+7.3	+45.4%
電子材料および 機能性化学品事業	売上高	80.0	84.3	△4.3	△5.1%
	営業利益	26.1	42.2	△16.0	△38.1%
(調整額)		△6.0	△6.0	△0.0	+1.0%
営業利益（全社）		43.6	52.4	△8.7	△16.8%

2020年3月期四半期別の業績



(単位：億円)	'20/3期 1Q	前年同期比		'20/3期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	99.7	△7.0	△6.6%	103.5	△2.7	△2.5%
営業利益	21.2	△5.2	△19.7%	22.3	△3.5	△13.7%
経常利益	21.0	△7.6	△26.5%	22.9	△4.5	△16.7%
四半期純利益	12.9	△5.8	△30.9%	17.1	△2.8	△14.4%
償却前営業利益	31.2	△0.0	△0.2%	33.0	+1.5	+5.0%
一株当たり 四半期純利益	36.5 円	△16.3 円		48.3 円	△8.1 円	

2020年3月期四半期別の業績

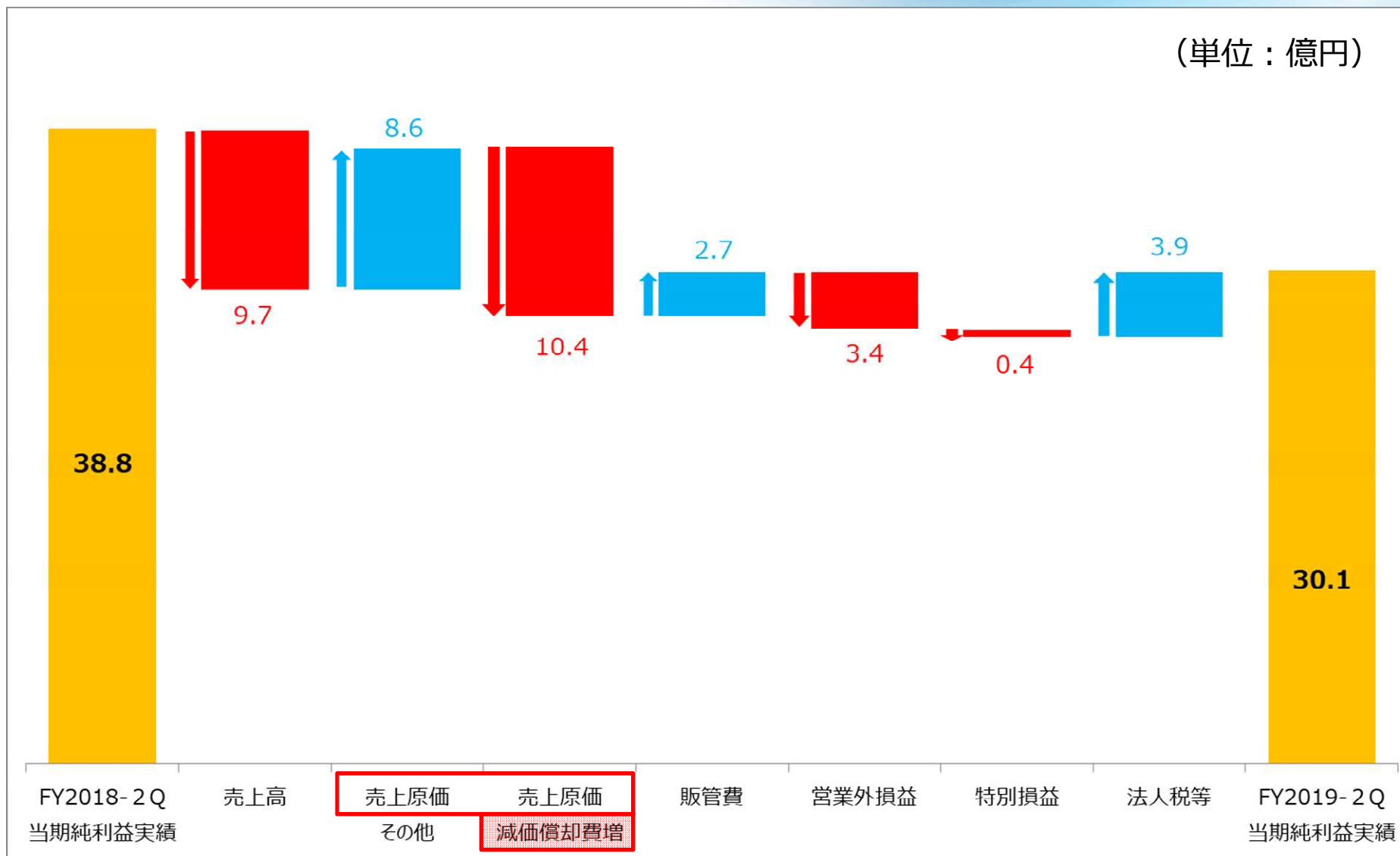


(単位：億円)		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	上期 (4-9月)	通期計画 (4-3月)
売上高	当期	99.7	103.5	203.3	430.0
	前期	106.8	106.2	213.1	420.7
ライフサイエンス事業	当期	61.1	62.1	123.2	258.5
	前期	64.1	64.5	128.7	252.0
電子材料および 機能性化学品事業	当期	38.6	41.4	80.0	171.5
	前期	42.6	41.6	84.3	168.6
営業利益	当期	21.2	22.3	43.6	75.0
	前期	26.5	25.9	52.4	92.8
ライフサイエンス事業	当期	11.4	12.1	23.5	35.0
	前期	7.5	8.6	16.2	35.1
電子材料および 機能性化学品事業	当期	12.8	13.3	26.1	53.0
	前期	21.9	20.3	42.2	69.6
(調整額)	当期	△3.0	△3.0	△6.0	△13.0

2020年3月期第2四半期 当期純利益増減要因



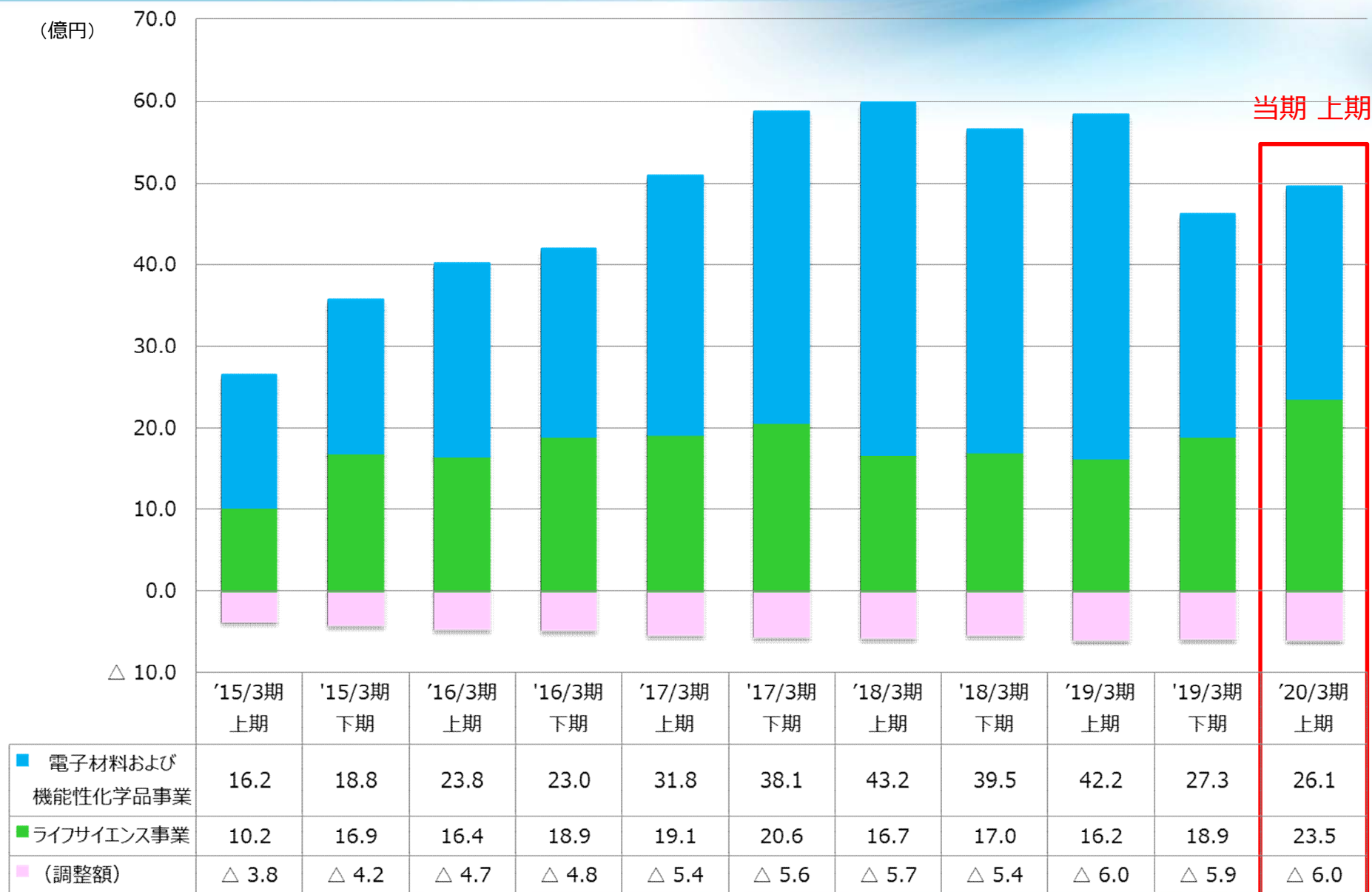
(単位：億円)



セグメント別売上高推移



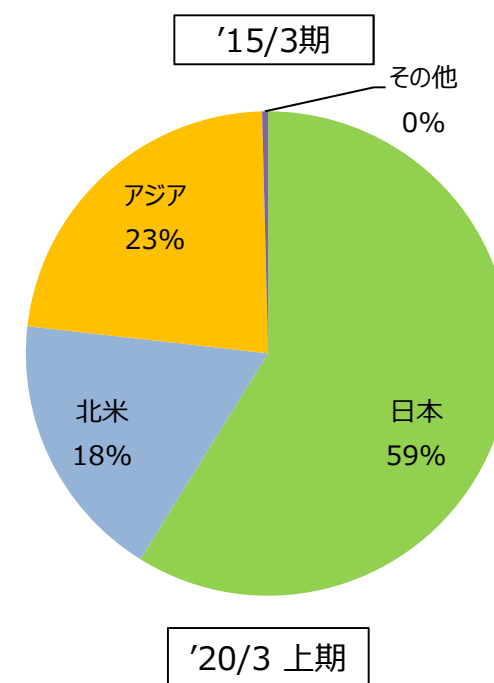
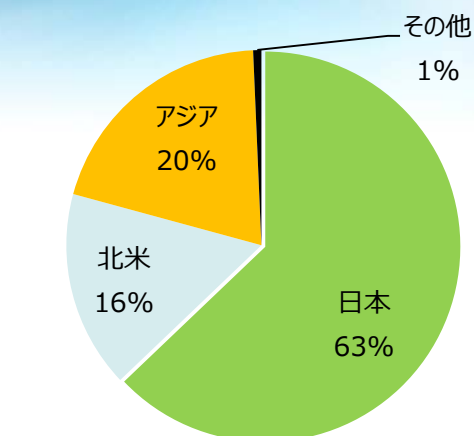
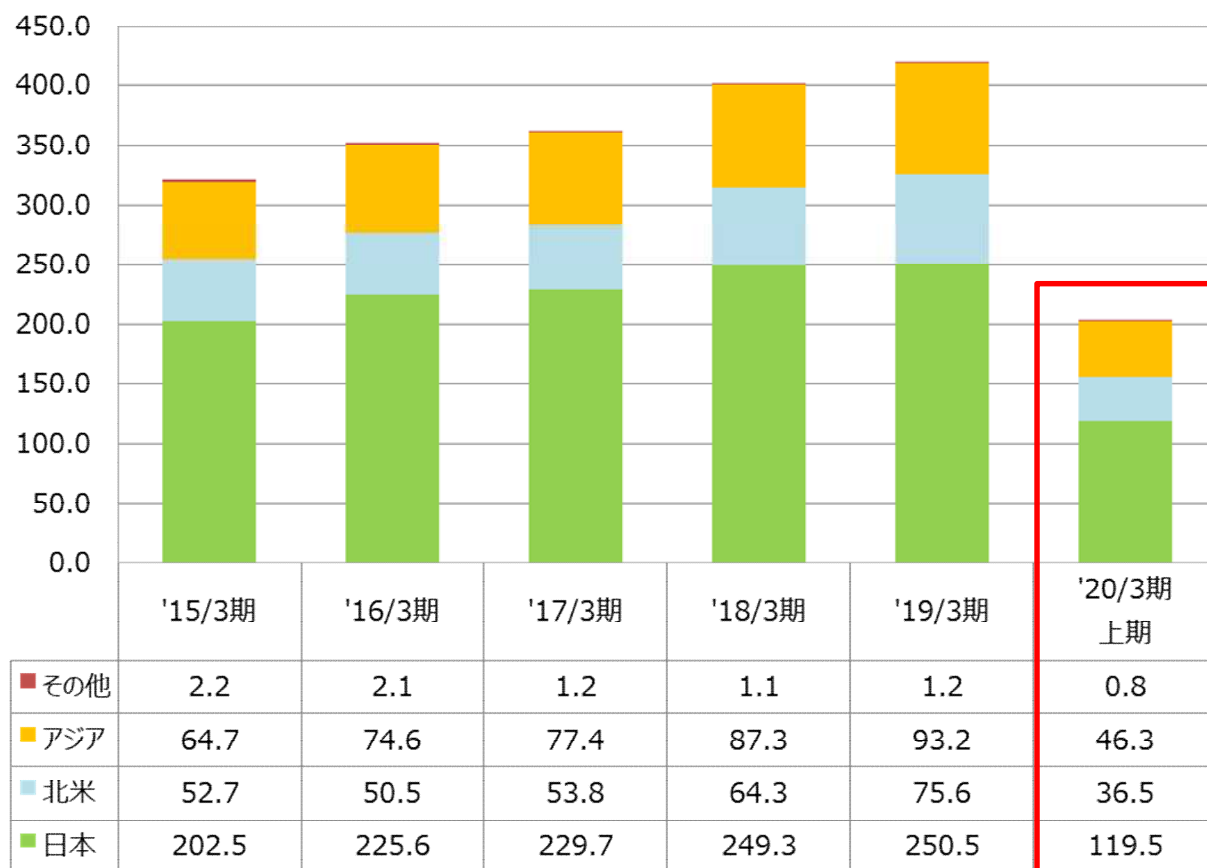
セグメント別営業利益推移



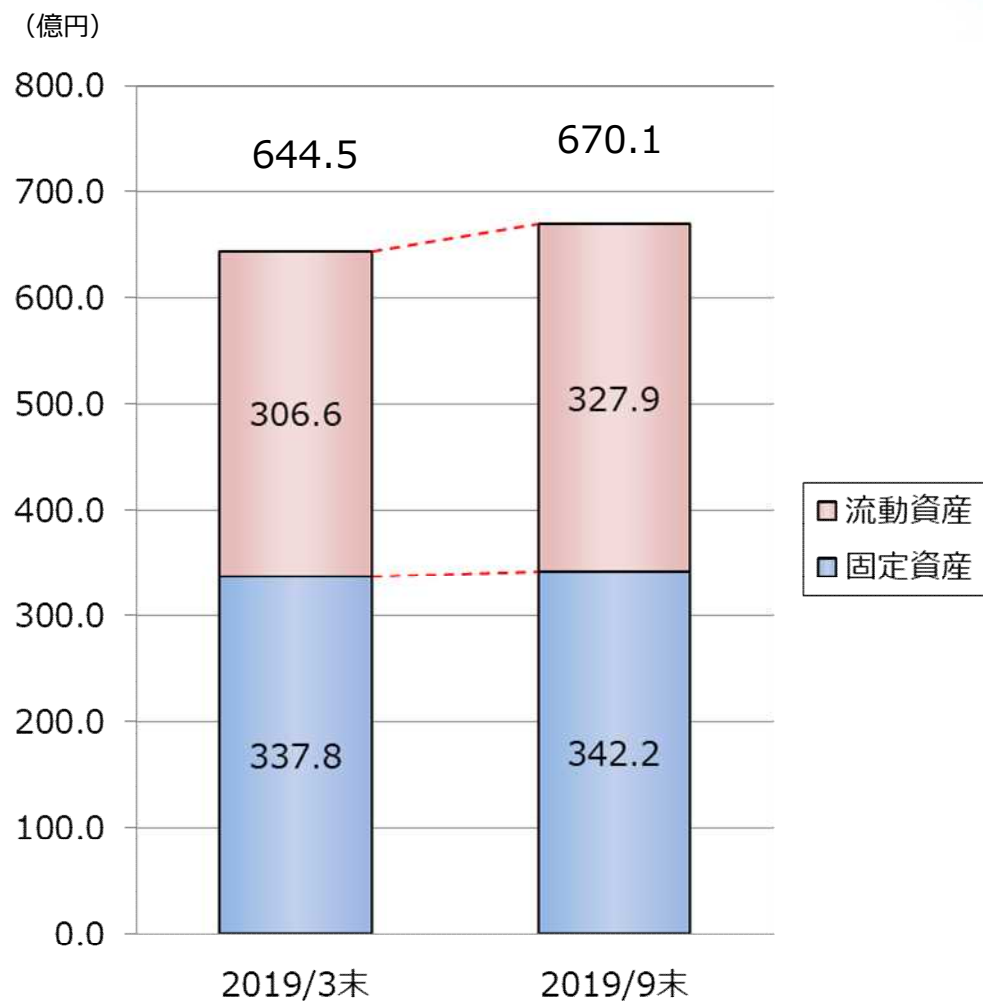
海外売上高推移



(単位：億円)



資産の状況



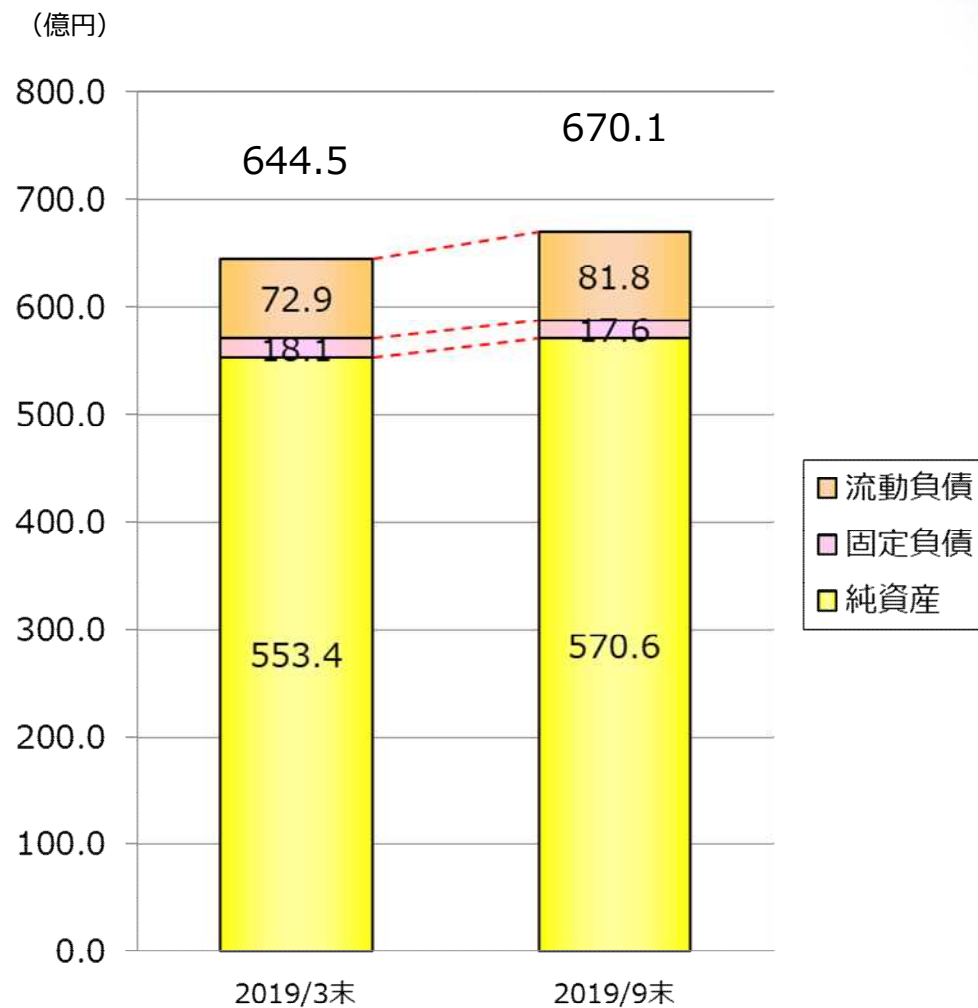
流動資産（前期末比 +21.2億円）

- ・ 現預金の増加

固定資産（前期末比 +4.3億円）

- ・ 建物及び構築物の増加
- ・ 機械装置及び運搬具の増加

負債・純資産の状況



流動負債（前期末比 +8.8億円）

- ・ 未払金の増加
- ・ 未払法人税の増加

固定負債（前期末比 △0.5億円）

純資産（前期末比 +17.2億円）

- ・ 利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(億円)

	前期 ('19/3) 上期	当期 ('20/3) 上期
営業活動による キャッシュ・フロー	34.6	59.1
投資活動による キャッシュ・フロー	△43.7	△17.2
財務活動による キャッシュ・フロー	△8.2	△8.2
現金及び現金同等物 に係る換算差額	2.4	△1.5
現金及び現金同等物 の増加額	△14.8	32.1
現金及び現金同等物 の期首残高	189.3	102.2
現金及び現金同等物 の期末残高	174.4	134.3

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 減価償却費の増加
- ・ 売上債権の減少

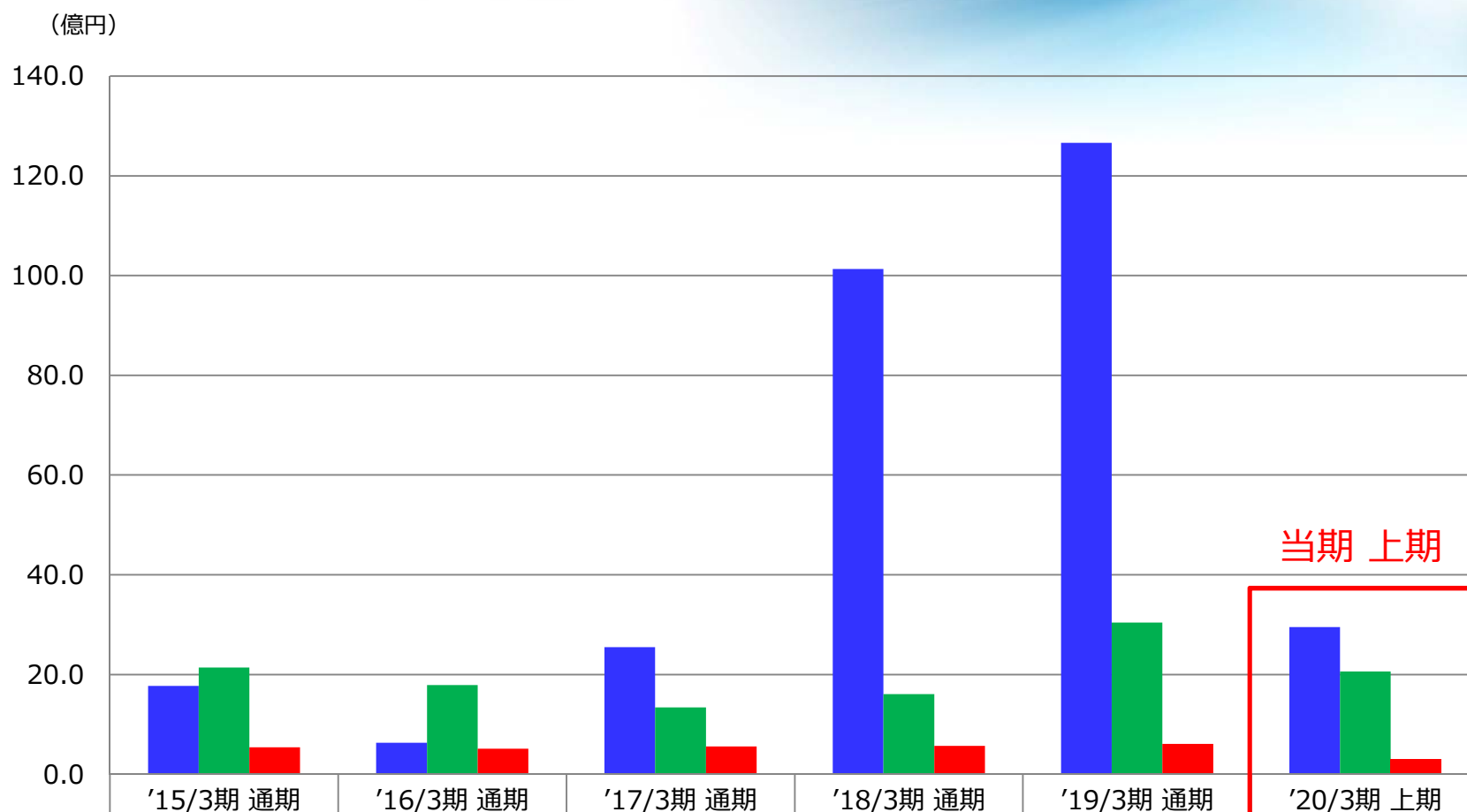
投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 有形固定資産の取得
- ・ 無形固定資産の取得

財務活動によるキャッシュ・フロー

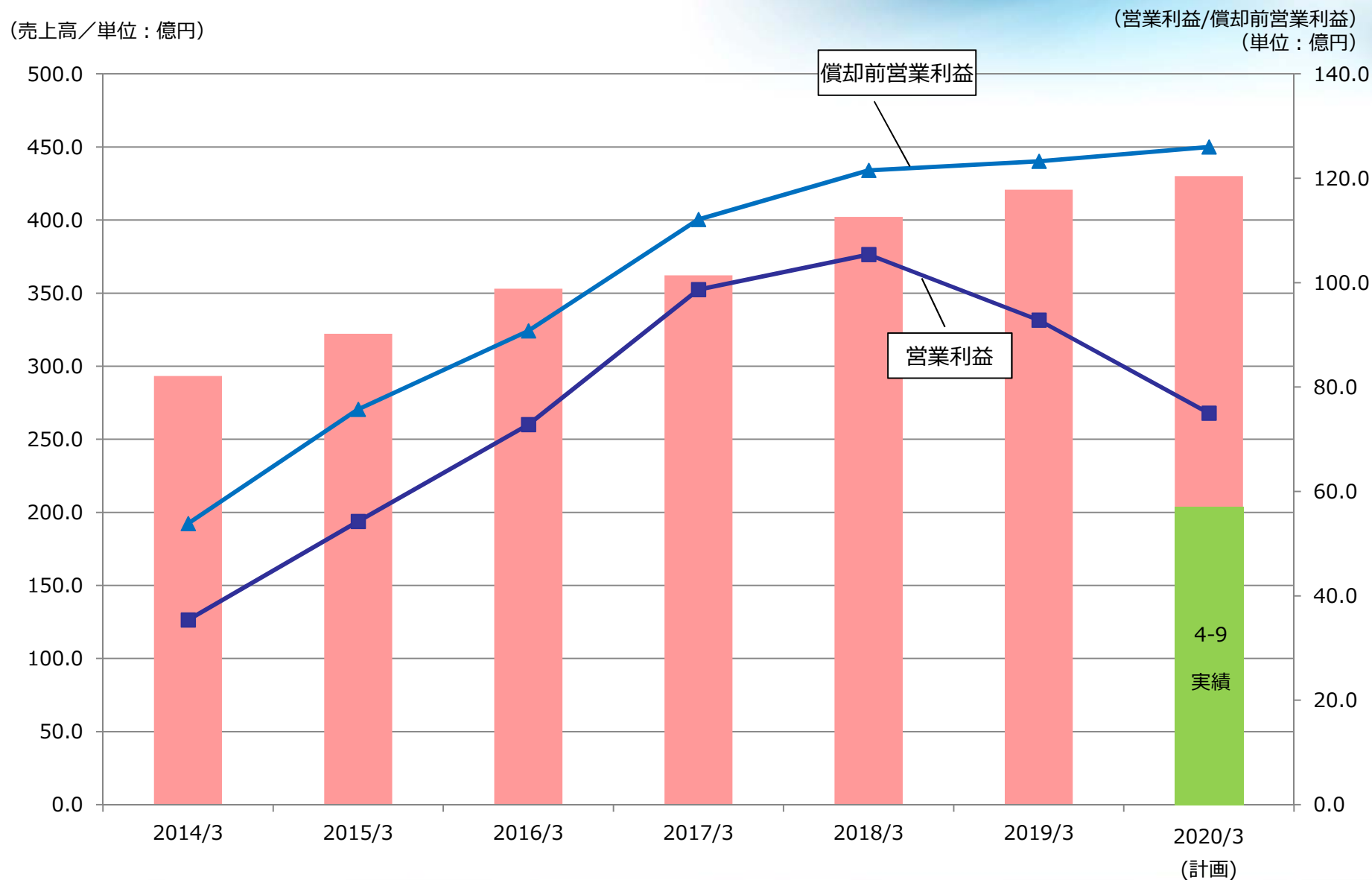
- ・ 配当金の支払い

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

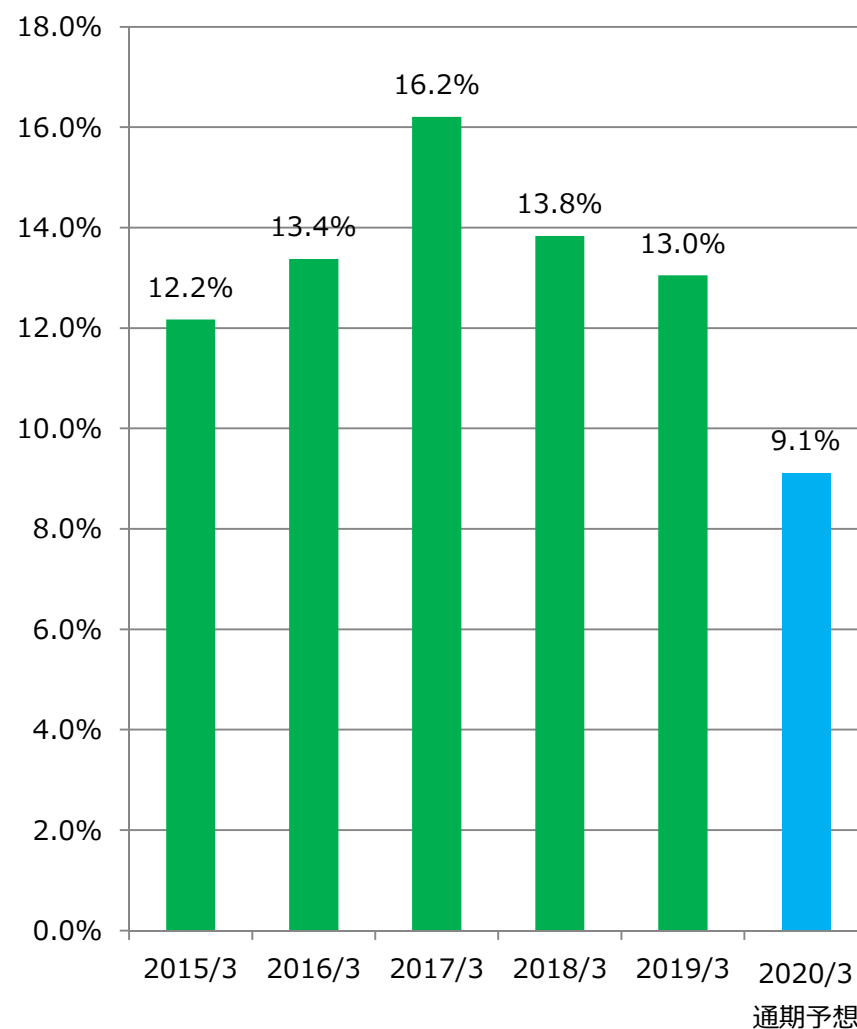


■ 設備投資	'15/3期 通期	'16/3期 通期	'17/3期 通期	'18/3期 通期	'19/3期 通期	'20/3期 上期
	17.7	6.3	25.5	101.3	126.6	29.5
■ 減価償却費 (のれん償却含む)	21.4	17.9	13.4	16.1	30.4	20.6
■ 研究開発費	5.4	5.1	5.6	5.7	6.1	3.0

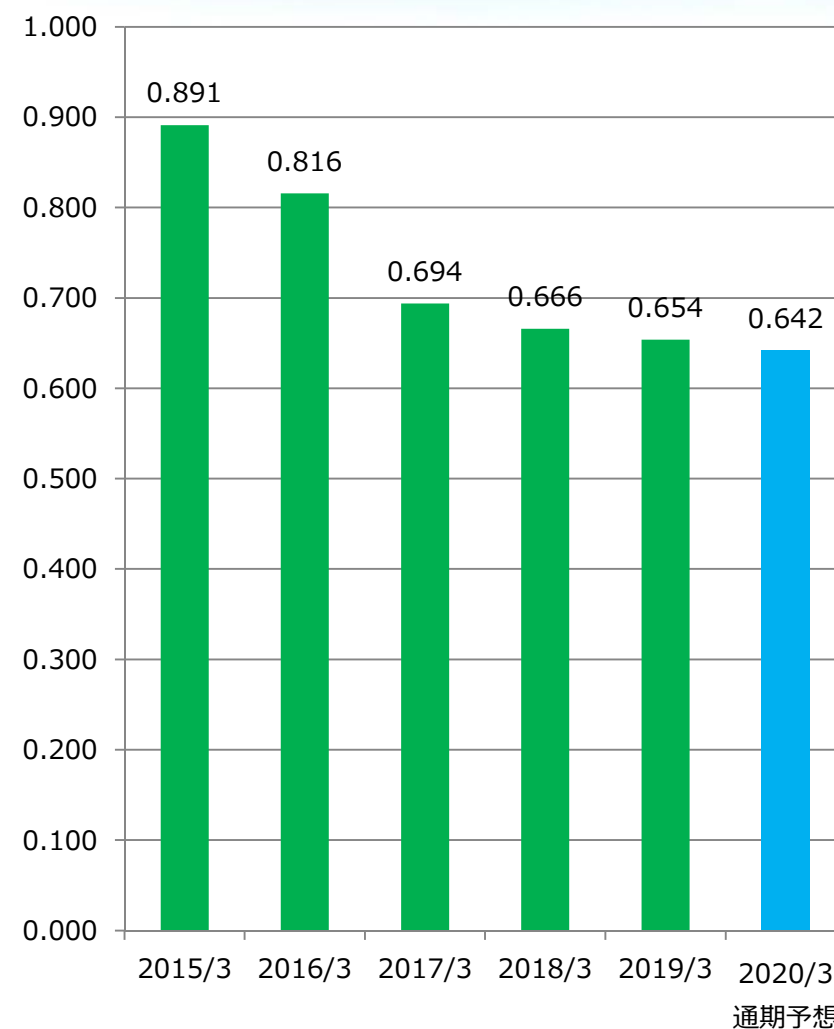
償却前営業利益



ROE (%)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況

ライフサイエンス事業



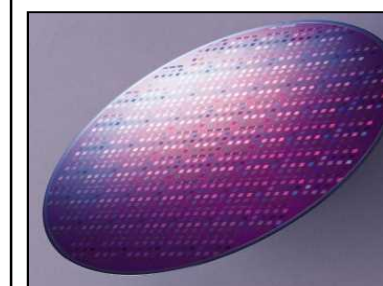
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- ビタミンC類
- イタコン酸
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)

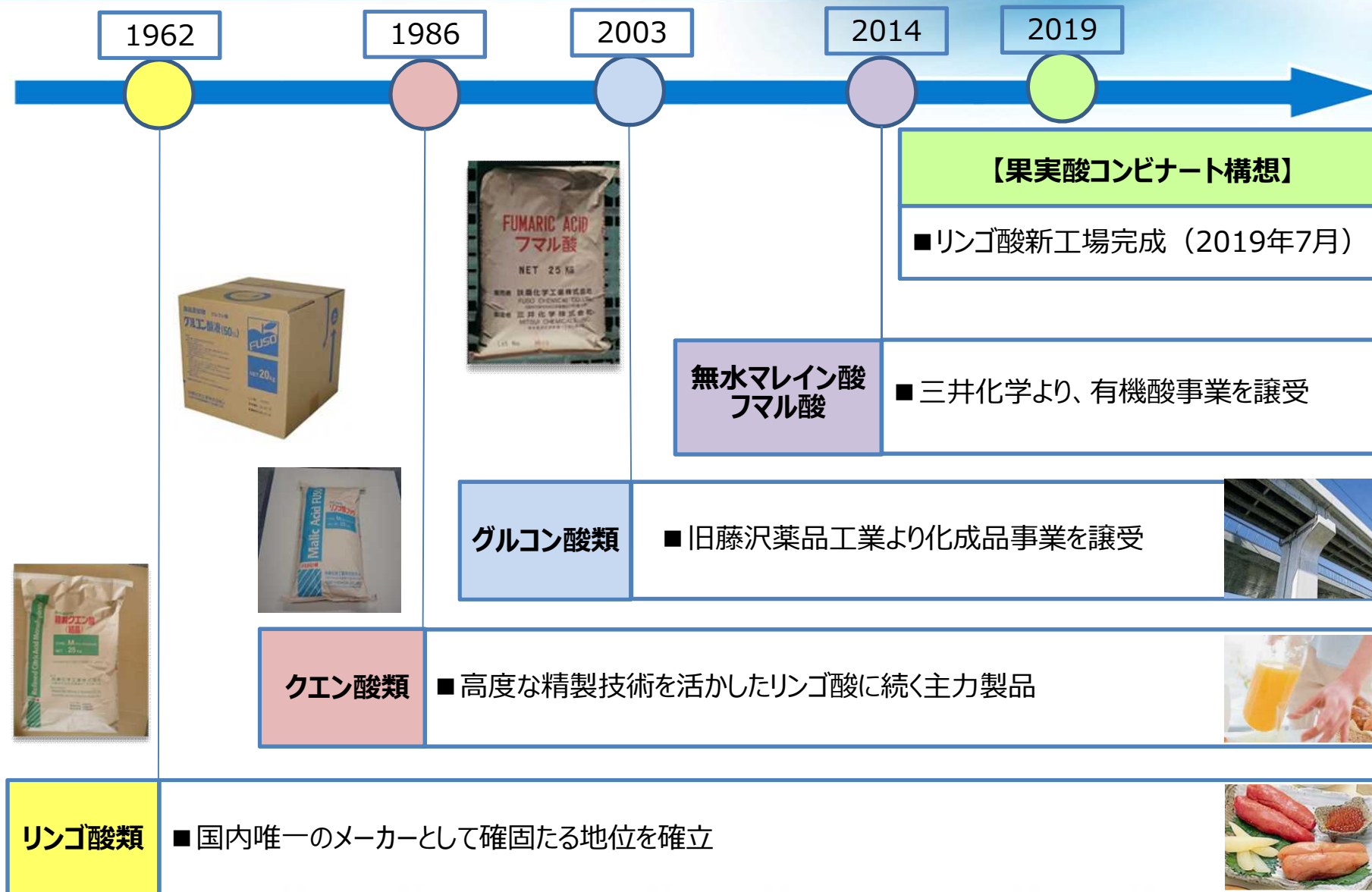


電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



事業内容 <金メダル製品増強への歩み>



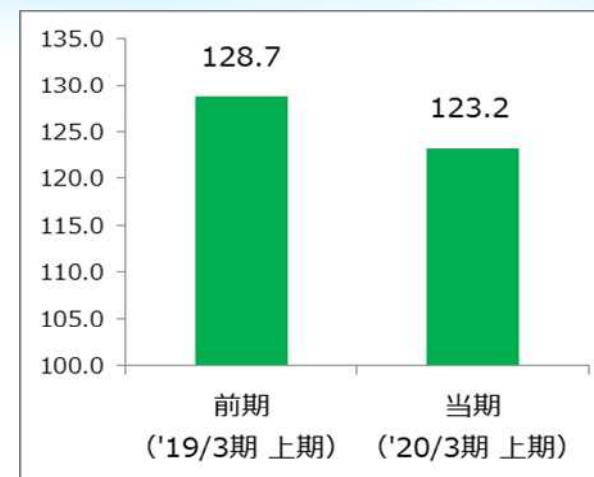
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位：億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	123.2	128.7	△5.4	△4.2%
営業利益	23.5	16.2	+7.3	+45.4%

売上高



売上高

<増加要因>

- ・リンゴ酸の輸出好調
(アジアでの飲料用途)

<減少要因>

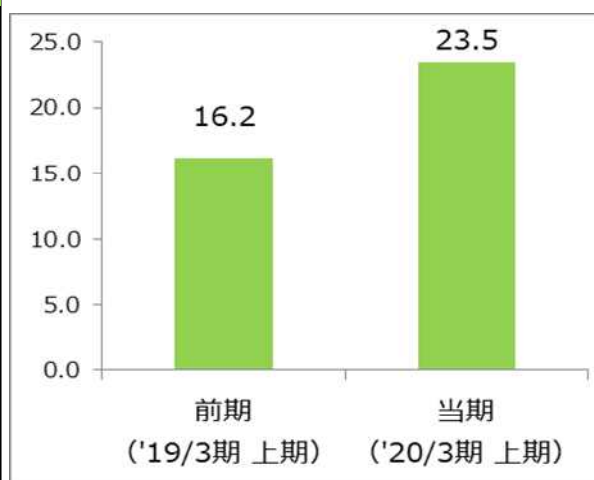
- ・リンゴ酸（国内）、クエン酸類、GDL、GNAの販売が低調
- ・ビタミンC類の市場価格下落
- ・フマル酸、無水マレイン酸の原料安に伴う販売単価

営業利益

<増加要因>

- ・原料原価の低下
- ・無水マレイン酸・フマル酸の価格改定

営業利益



売上高

- ・ リンゴ酸（国内）、クエン酸、GDL、GNAの販売低調
┆▶電子部品関連業界（めっき、洗浄剤）の低調
- ・ リンゴ酸（輸出）の販売好調
┆▶アジア大手飲料メーカーでのシェア拡大、新規国（インド、ペルー等）での販売開始
- ・ ビタミンC類の市場単価下落
┆▶ビタミンCメーカー乱立による過当競争
- ・ 無水マレイン酸、フマル酸の販売単価
┆▶原料ベンゼンの価格低下、一部陥没価格ユーザーへの販売縮小
【2018年】885\$/MT 【2019年】598\$/MT 《ACP 1-6月平均》

減収
増益

営業利益

- ・ 原料原価の低下、無水マレイン酸・フマル酸の価格改定
┆▶設定為替、設定購入原料価格との差による差益
- ・ 海外グルコン酸ビジネスの販売好調

I. 果実酸コンビナート構想の実現

II. グローバル展開

III. 高付加価値品の開発と販売

IV. 新製品の上市&新たな柱となるビジネスの創出

I. 果実酸コンビナート構想《リンゴ酸》



● 新工場

三井化学株式会社から有機酸設備を譲受。

- ◆ 2017年 11月 : 鹿島事業所設立
- ◆ 2018年 2月～ : リンゴ酸新工場 建設
- ◆ 2019年 7月 : 竣工式

- ◆ 試運転中
- ◆ 年内に実液連続運転開始予定

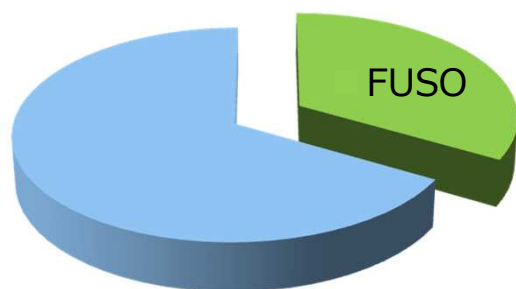


I. 果実酸コンビナート構想《リンゴ酸》



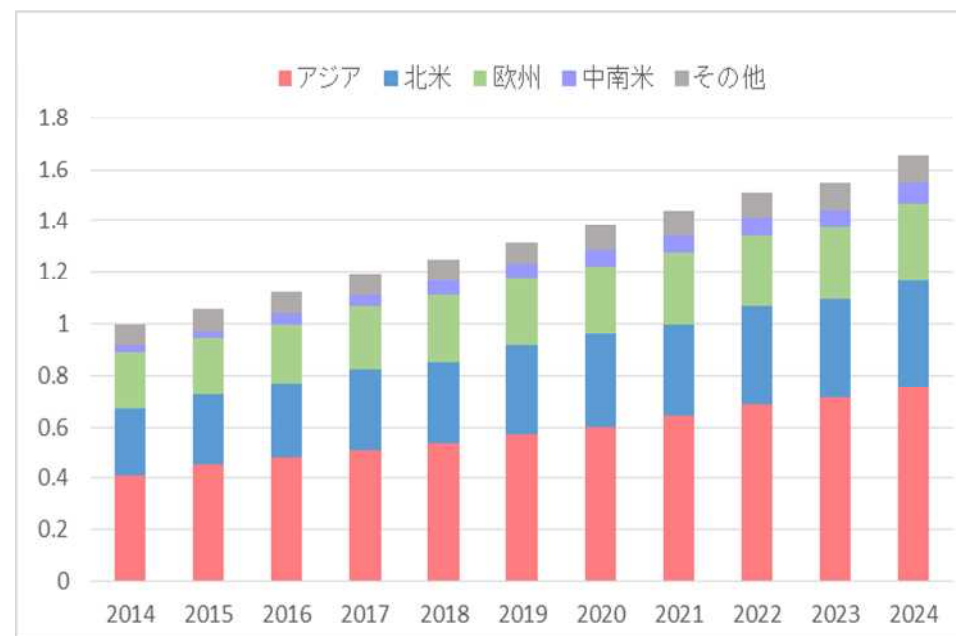
● 世界市場

リンゴ酸市場（アジア）



(当社推定：35,000トン)

地域別市場推移



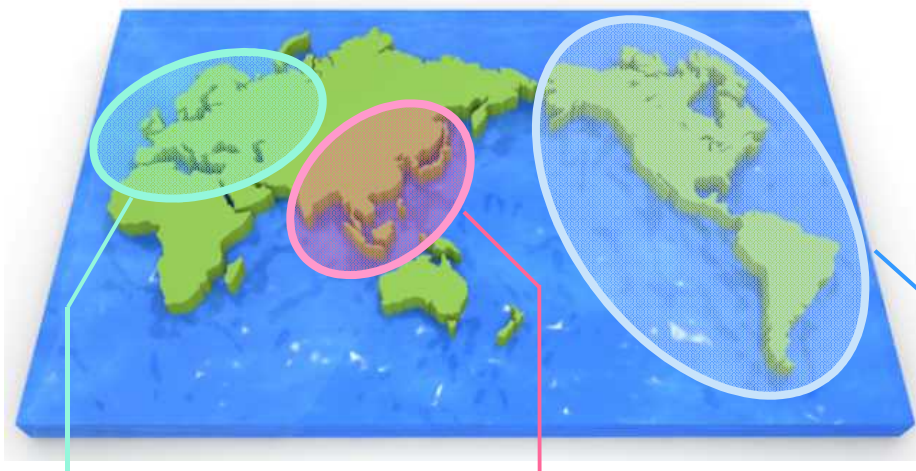
* 2014年の世界市場を1として

- 世界市場は年率 3 %～ 5 %以上の成長 ⇨ 近い将来10万トン/年
- アジア市場が世界市場の伸びの半分

I. 果実酸コンビナート構想《リンゴ酸》



●販売計画



TOTAL

(MT/Y)

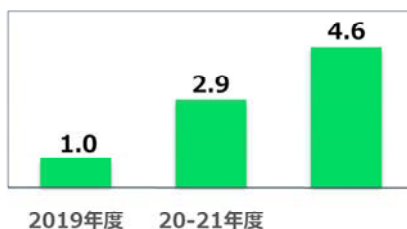
11,000 ('19年度)

14,000 ('20-'21年度)



18,000 (MT/Y)

Europe & other areas



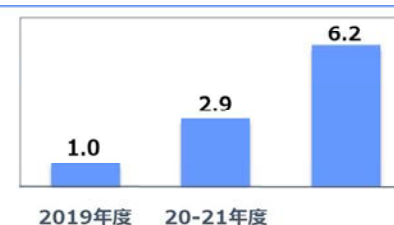
・玉待ち各国販売店の活用

Asia



・青島扶桑、扶桑タイランドとの連携
・歴史ある各国販売店の活用

N. & S. America



・PMPとの連携

I .果実酸コンビナート構想《リンゴ酸》



● 販売・生産戦略

- ◆ 海外ユーザーの新規獲得、既存先取込み・拡大
既に今年度より取組みを開始し、予定通りに進捗中
- ◆ 国内ユーザーの切替え促進
生産開始後、顧客に評価を依頼

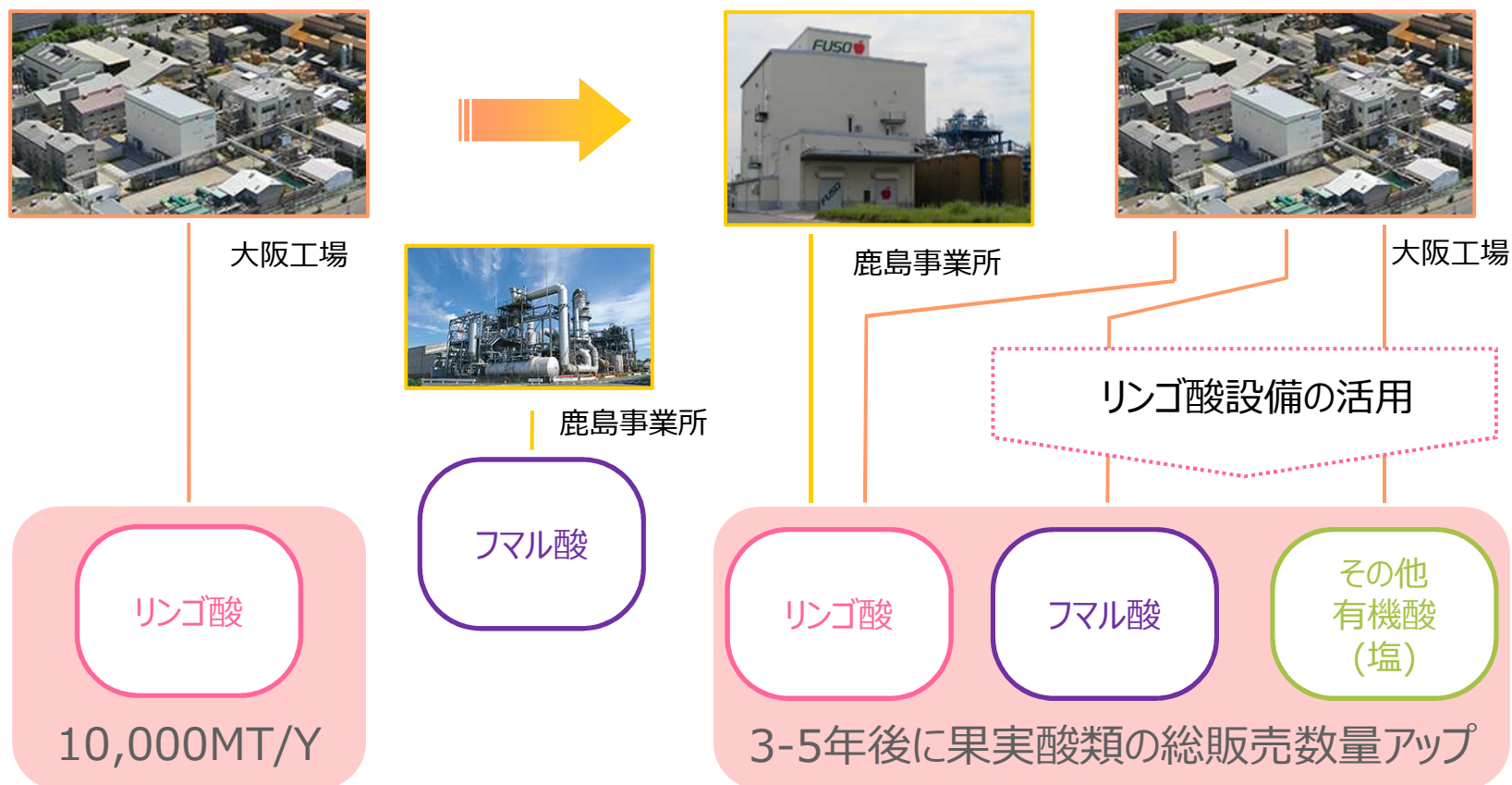


- ◆ 海外市場の成長分も含めたシェアの確保
- ◆ 投資額回収の早期達成

I. 果実酸コンビナート構想《果実酸》



● 果実酸コンビナート



Ⅱ.グローバル展開



扶桑グループの連携により、自社製品や新規素材のビジネスを拡大

Qingdao Fuso Refining & Processing Co., Ltd.

- ◆ 高付加価値品へのシフト
- ◆ 新規食品添加物製剤の開発
- ◆ 生産設備の自動化促進
- ◆ 半導体向け素材の開発
汎用コロイダルシリカの販売(電材)



- ・ グローバル展開を加速
扶桑化学・青島扶桑・扶桑タイランド
PMPとの連携を強化
- ・ 扶桑グループ製商品の
海外での販売を拡大

FUSO Chemical Co., Ltd.



Fuso(Thailand) Co., Ltd.

- ◆ 扶桑グループとの連携
高付加価値有機酸の販売
- ◆ 日系及びタイローカルの手食品会社
における新規採用
- ◆ タイ周辺国への輸出
ミャンマーへの輸出 (リンゴ酸)

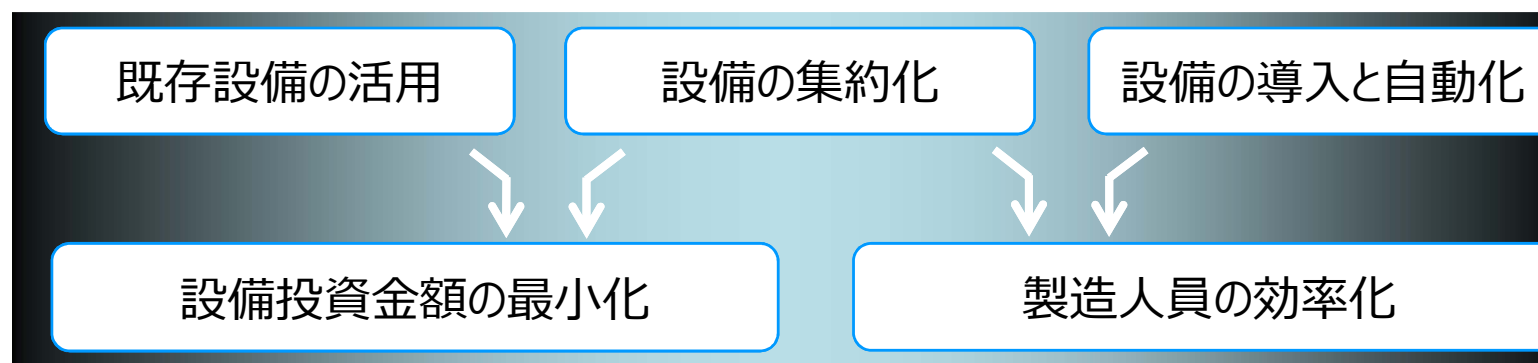
PMP Fermentation Products, Inc.

- ◆ 農業分野、食品分野、融雪分野への
グルコン酸類販売拡大
- ◆ 扶桑グループの連携強化
北中米・南米市場での扶桑グループ
製品の拡販
- ◆ 生産能力強化
2～3割の能力アップ

Ⅲ.高付加価値品の開発と販売

《 コート有機酸等 》

●生産設備導入検討



鹿島事業所

- ◆ 新製品の上市
- ◆ 製造原価の低減と利益の拡大



大阪工場

規模を拡大し鹿島事業所内へ展開

IV.新製品の上市 & 新たな柱となるビジネスの創出



《 ストレスフリー製剤 》

植物分野

- ◆委託試験 → 実施中（芝、食用作物、花卉）
さらに他のターゲットでの評価も調査中
- ◆自社評価 → 外部試験及び内部試験を計画中
- ◆サンプル評価 → 評価中(数社)
さらに評価可能性のある先を調査中



畜産・水産分野

- ◆サンプル評価 → 評価中(水産養殖品種)
水産関係だけでなく、ペット関連・飼料メーカーも含め、さらに評価可能性のある先を調査中
- ◆共同研究 → 大学との共同研究による基礎データの蓄積継続中



電子材料および 機能性化学品事業



ライフサイエンス 事業



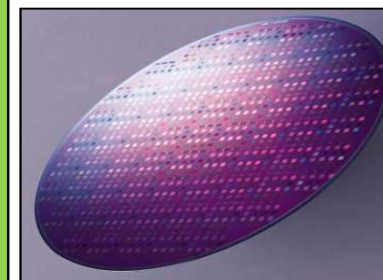
- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸



電子材料 および 機能性化学品 事業



- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



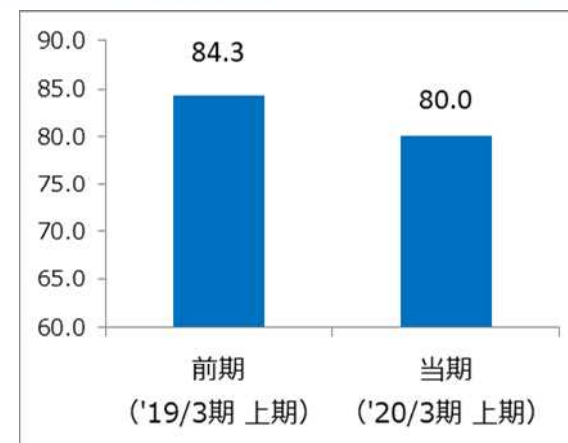
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位：億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	80.0	84.3	△4.3	△5.1%
営業利益	26.1	42.2	△16.0	△38.1%

売上高



売上高

<増加要因>

- ・最先端CMP用途での採用増
- ・ナノパウダー販売増

<減少要因>

- ・中国市場の成長鈍化
- ・半導体市場の調整局面

営業利益

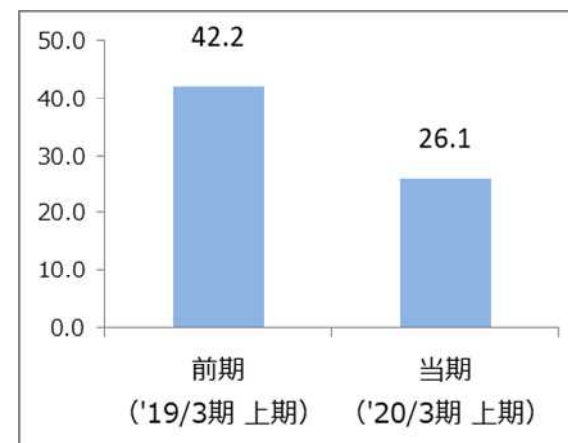
<増加要因>

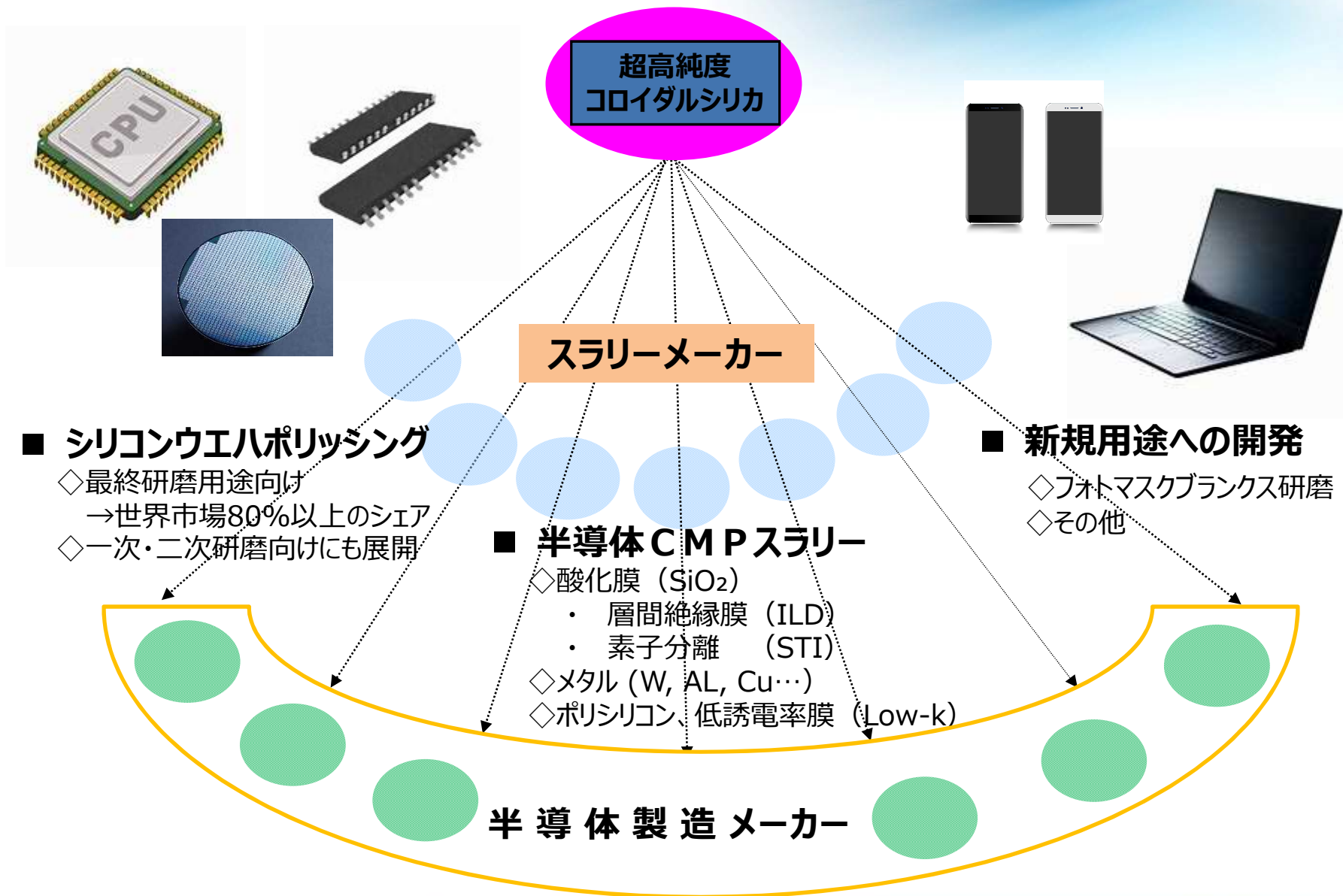
- ・製造経費のコストダウン

<減少要因>

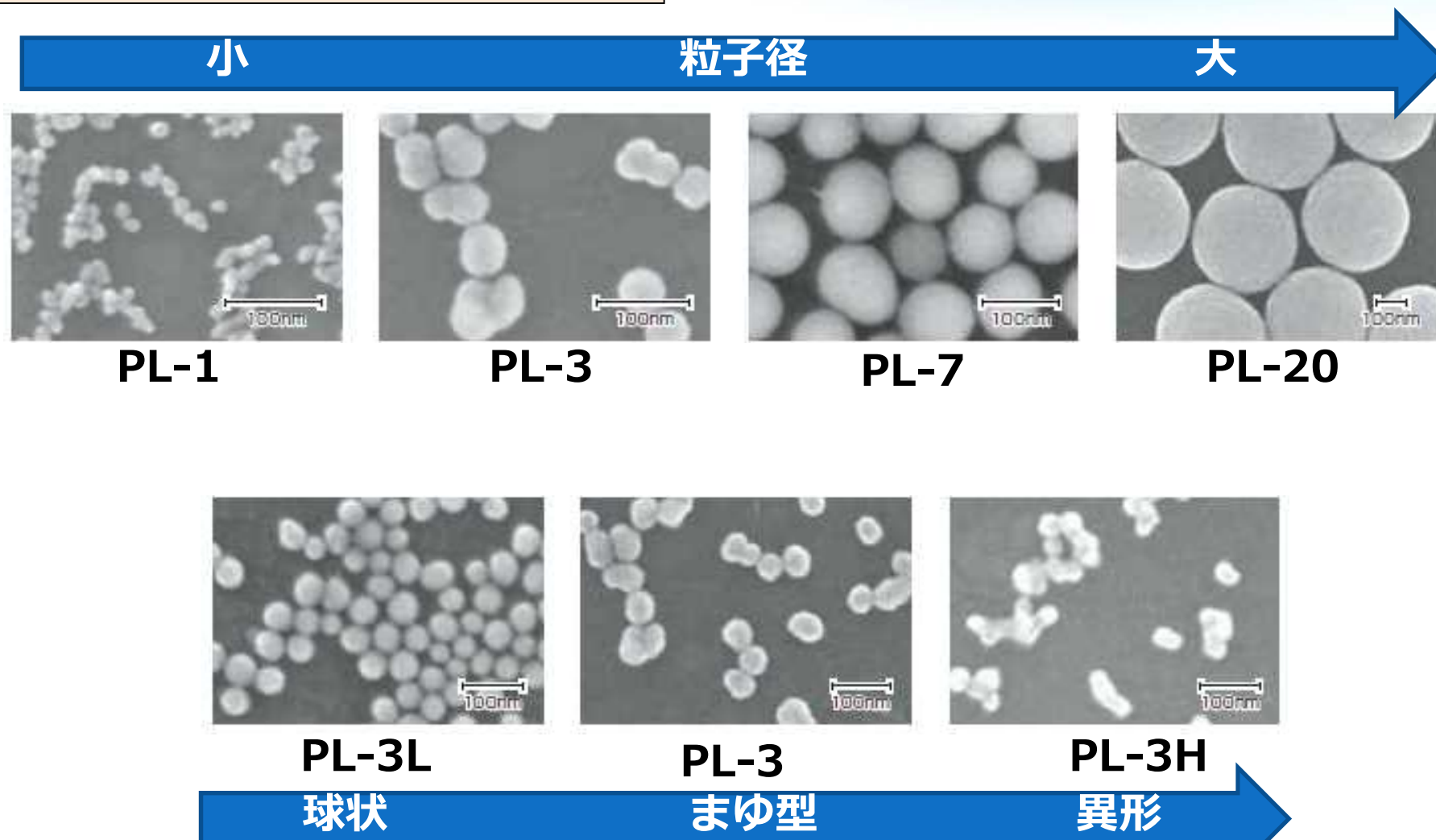
- ・投資による減価償却費増
- ・販売数量減
- ・新設ライン洗浄に伴う水光熱費増

営業利益



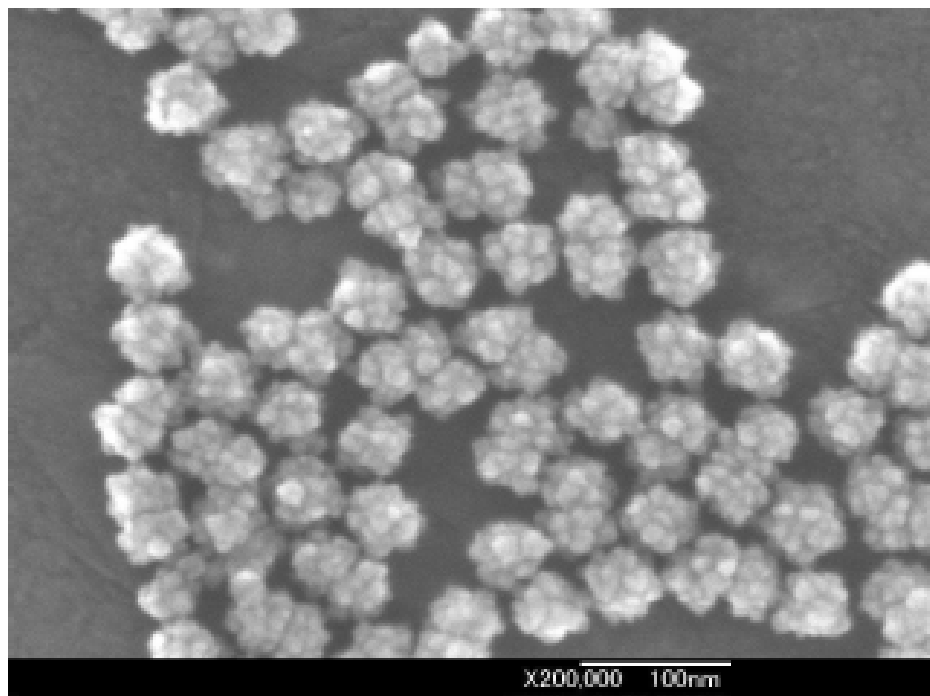


1. 粒子径及び会合度制御技術

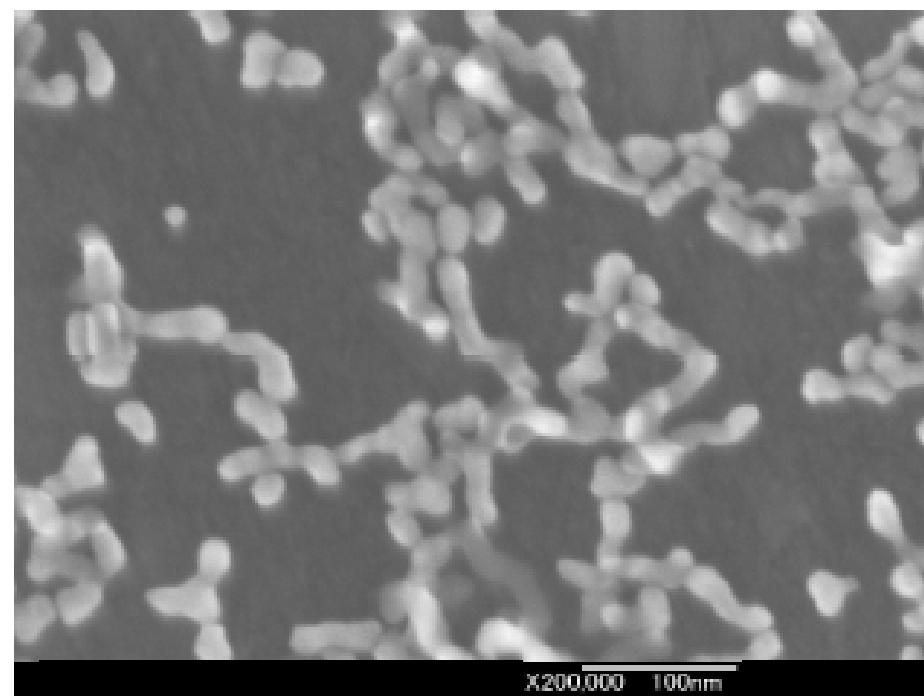


2. 粒子形状制御技術

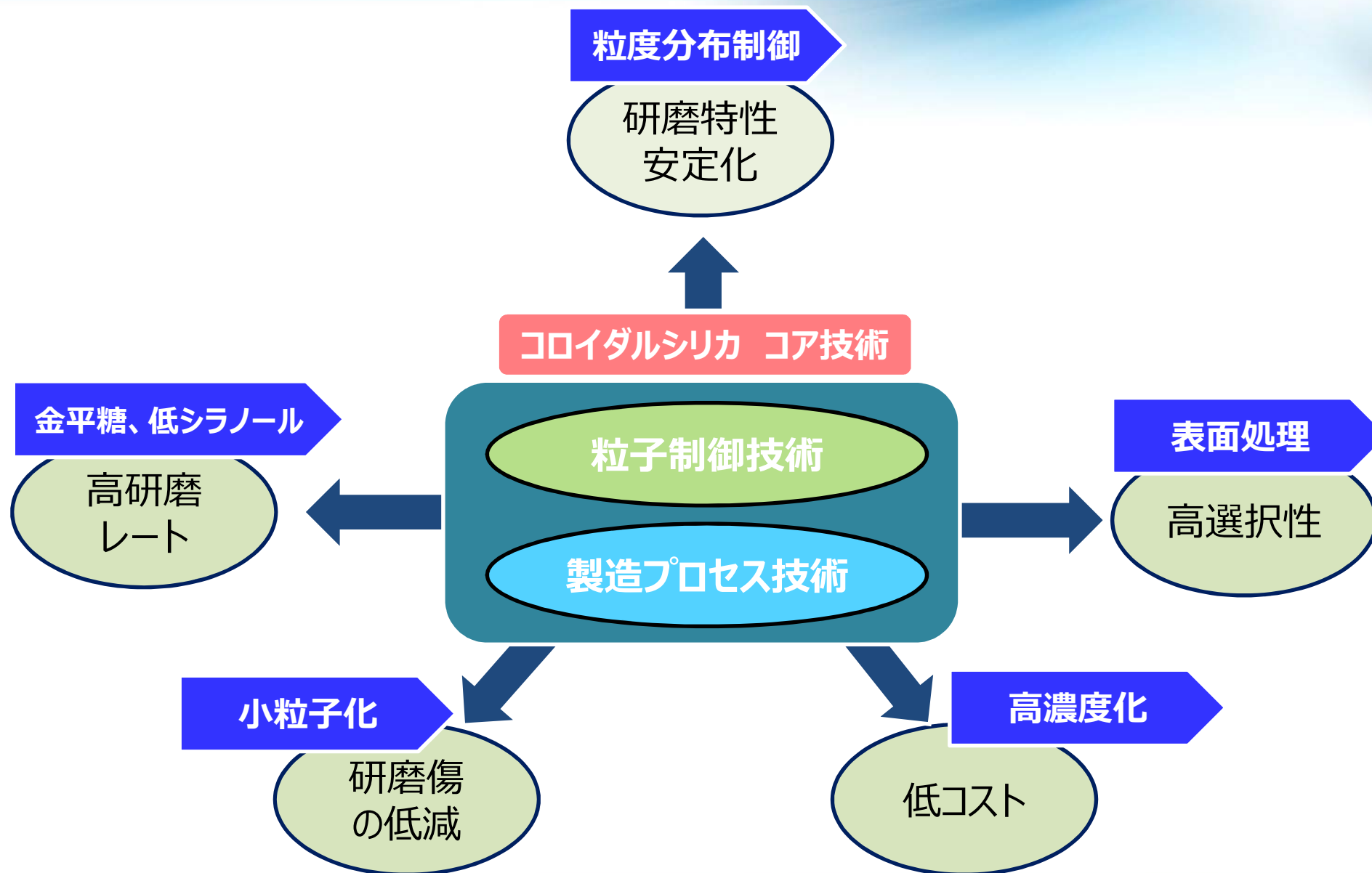
金平糖/ホップ°コーン状



ひも状



次世代半導体向けコロイダルシリカの開発



半導体業界の動向（ウェハ数量）

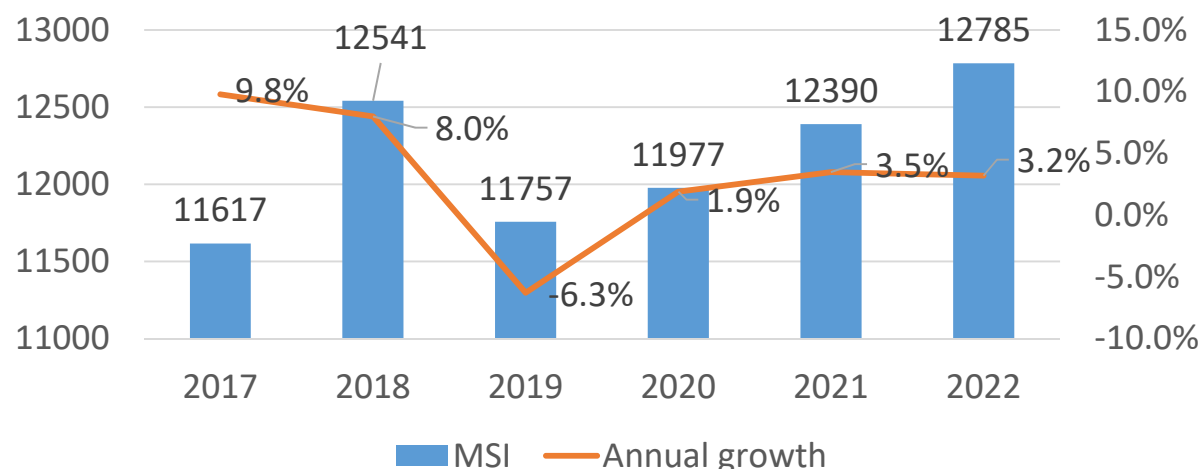


< ワールドワイド ウェハ出荷数量 (MSI) >



◆ ウェハ出荷数量 ◆
2018年半ばを境に
減少傾向

< ワールドワイドウェハ出荷数量予測 (MSI) >



◆ ウェハ出荷数量予測 ◆
2020年から再び増加傾向
2022年に過去最高
に到達する予想

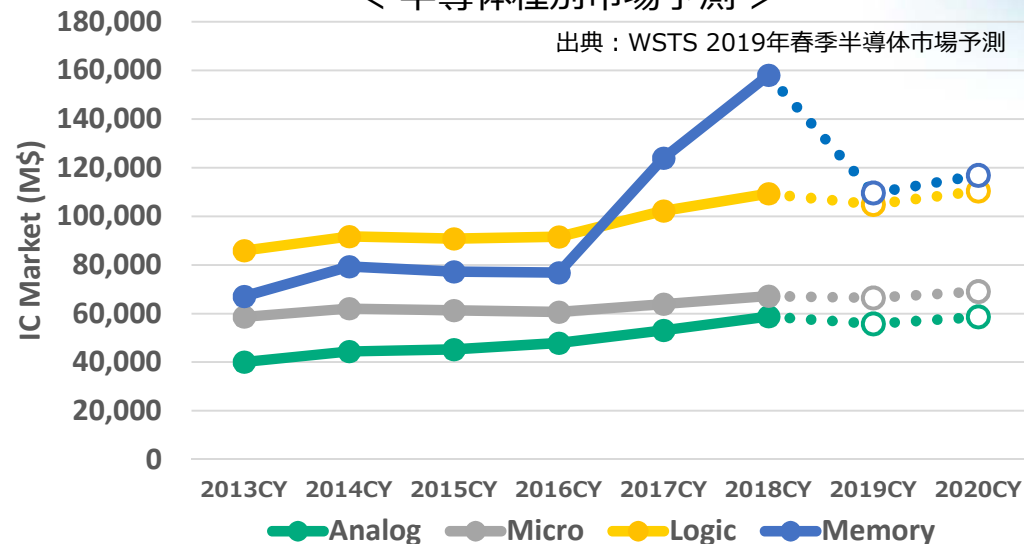
出典 SEMI

半導体業界の動向



< 半導体種別市場予測 >

出典：WSTS 2019年春季半導体市場予測



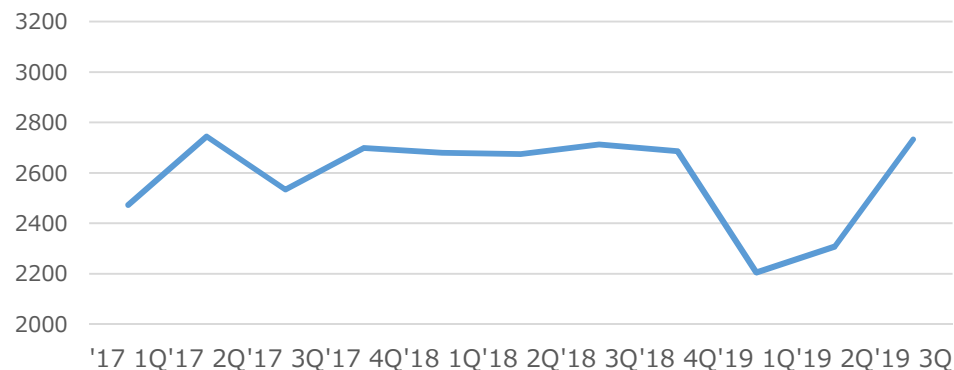
- ◆ CPU供給不足によるDRAM需要減
- ◆ スマホ需要頭打ち
- ◆ データセンター投資抑制

稼働率微減

メモリ市場価格の下落

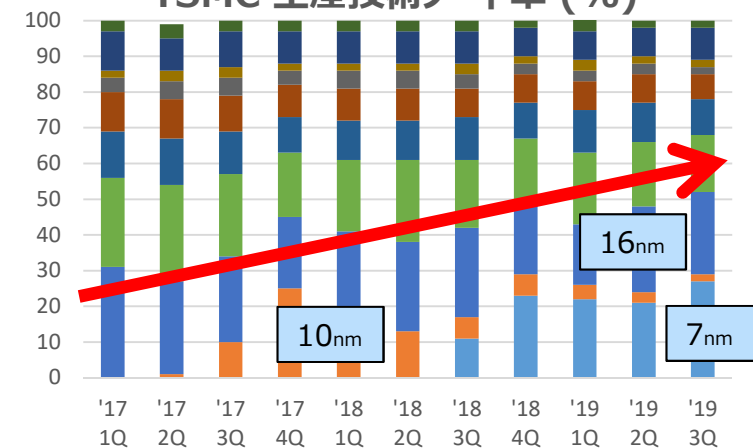
(推定)	2019年	2020年
ロジック	- 4.0%	+5.3%
メモリ	-30.6%	+6.6%

< TSMC ウェハ出荷数量 (12"ウェハ換算kpcs) >



- ◆ 先端ノードの増加

TSMC 生産技術ノード率 (%)



参照：TSMC開示資料

✓ 直近の半導体市場は、調整局面

- 米中貿易摩擦/中国経済低迷によるスマホ需要減少・市場飽和
スマホ出荷見通し台数の3年連続減少
- 4-6月期の不調が考慮され、7月末に下方修正。 2019年は対前年10%前後のマイナスの見込み

✓ 2019年後半～2020年の見通し

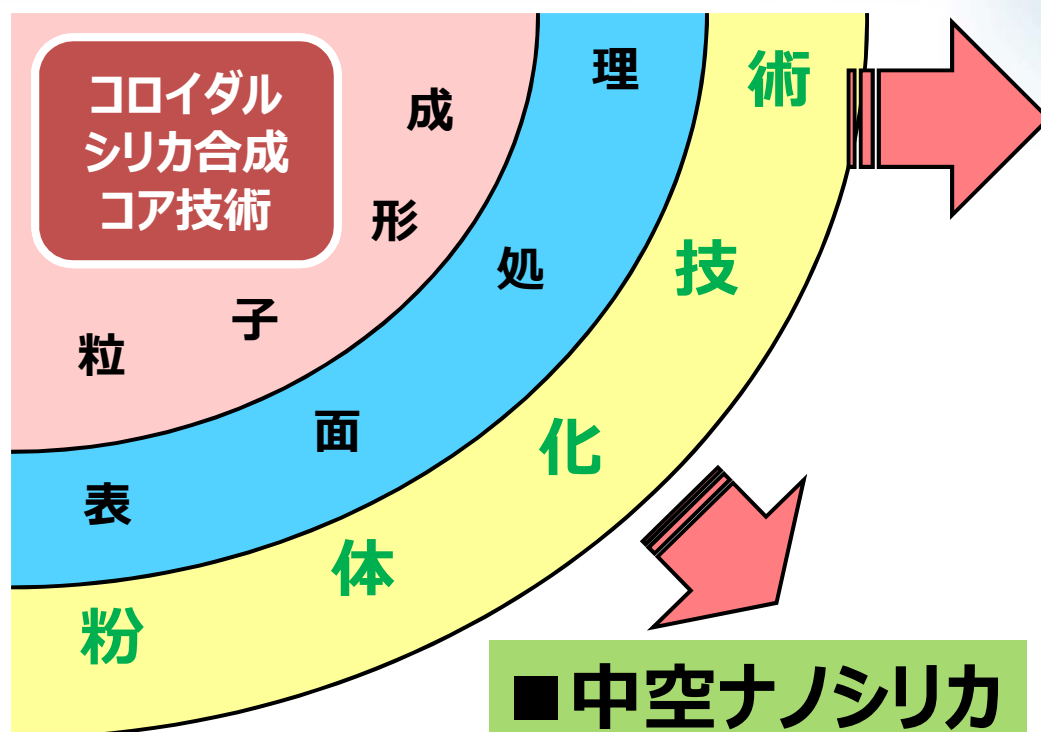
- メモリ過剰在庫解消し2020年に回復見通し
- 高性能ロジックを必要とする用途拡大 5G対応サーバー需要増加による高性能メモリ需要の増大
- CPUのフル生産が20年度以降も継続

✓ 米中貿易摩擦

- Huawei制裁；5G基地局、端末の禁輸方針が世界に波
- 追加関税；中国からのほぼ全ての輸入品について、追加関税を課徴

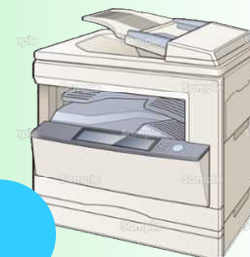
✓ 日韓関係と対韓貿易政策

- ホワイト国除外(8/28～)；キャッチオール規制に基づいた管理
→ 台湾/中国と同様にシリカ輸出影響なし



■シリカナノパウダー

- ◇ 球状～異形状
- ◇ 多彩な粒子径
- ◇ 表面修飾技術



トナー用途



樹脂フィラー

■中空ナノシリカ

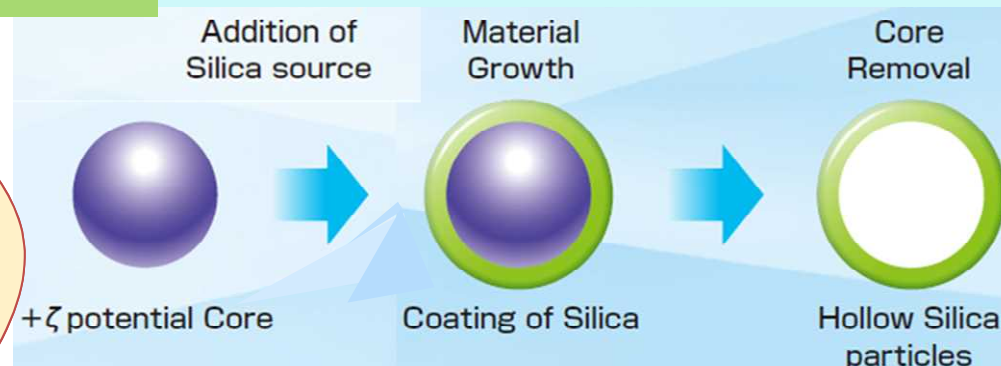
- ◇ 高い光学特性
- ◇ 表面修飾技術

オルガゾルタイプ

低反射材料



中空ナノシリカ製法イメージ

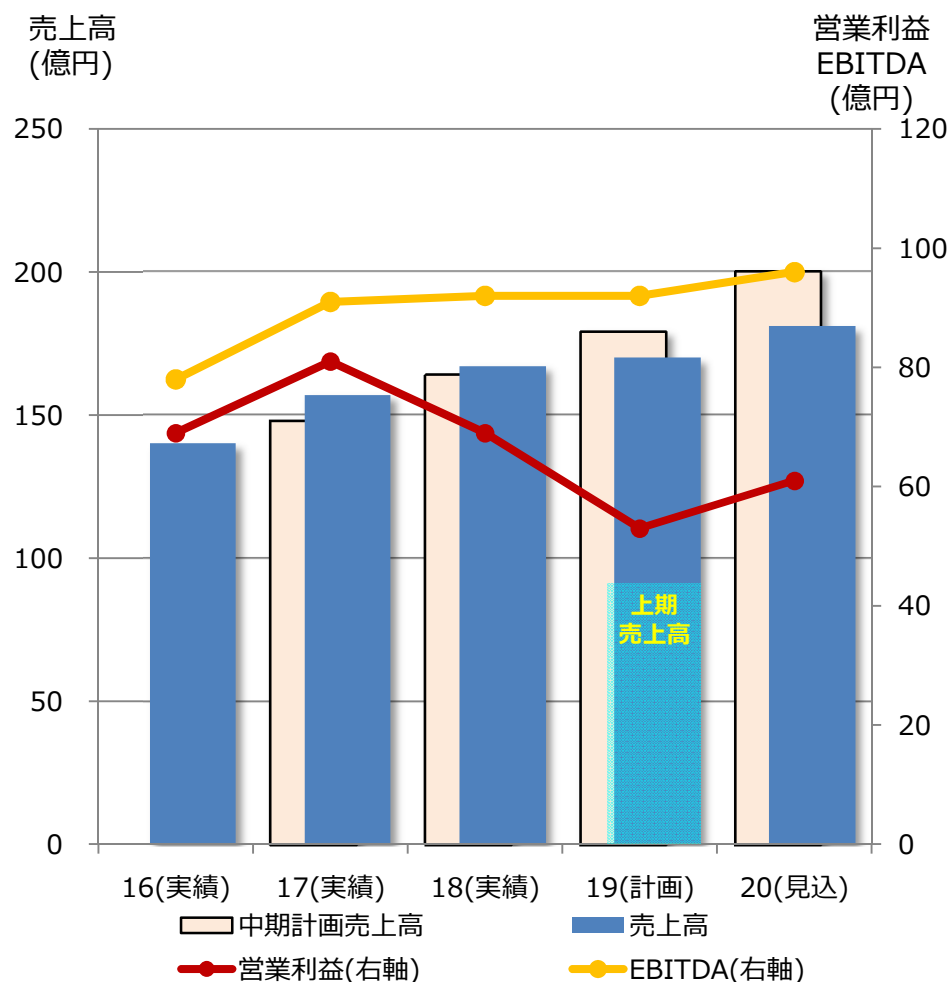


現状と見通し



✓ 中期計画

- 2019年度期初計画に変更無し。



✓ 新設備稼働状況

- 新規開発製品の生産
- 顧客のライン認定完了品生産開始
- 社内認定完了品生産開始
- 顧客認定用サンプル生産



Ⅲ. 2020年3月期業績予想

設備投資計画



- ◆ 競争に勝ち残る最先端工場
- ◆ 当初計画より前倒しで立上げ
- ◆ Speed, Cost, Quality



3年間で全て完了
 期間 : 計画通り
 投資額 : 計画通り

セグメント	事業所	設備の内容	投資額		着手および完了	
			予定額 (百万円)	支払額 (百万円)	着手 (年月)	完了 (年月)
ライフサイエンス事業	鹿島 事業所	リンゴ酸製造設備 新設	5,800	3,176	2017年11月	2019年7月*
電子材料および 機能性化学品事業	京都 事業所	超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設 および改造	4,641	4,641	2016年10月	2019年1月
		超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設	8,258	7,986	2017年 6月	2019年7月

* リンゴ酸製造設備 完成済み（償却は2019年度下期から）

大型投資完成



ライフサイエンス事業部



【全景】



【新リンゴ酸製造棟】



【リンゴ酸設備】

電子材料事業部



【第1工場増設】



【第2工場増設】



【第2工場上空】

償却額見込

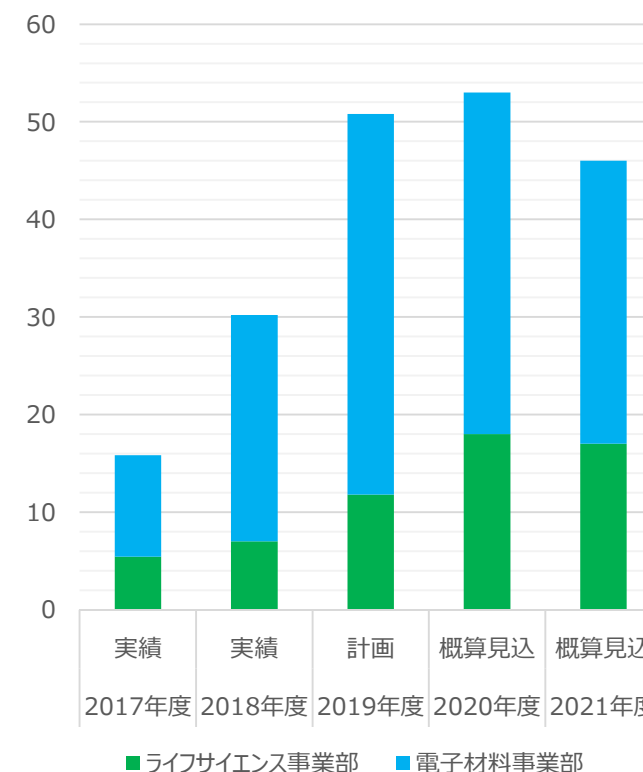


- ◆ 電子材料事業部門：2018年度下期より増加。2019年度最大に。
- ◆ ライフサイエンス事業部門：2019年度下期より増加。2020年度最大に。

(単位：百万円)

(億円)

セグメント	2018 年度 4-9実績	2019 年度 4-9実績	2018 年度 実績	2019 年度 計画	2020 年度 概算見込	2021 年度 概算見込
ライフサイエンス事業 部	327	292	671	1,180	1,800	1,700
電子材料事業部	699	1,767	2,352	3,900	3,500	2,900
共通	10	8	21	20	100	100
連結合計	1,037	2,067	3,044	5,100	5,400	4,700



* 工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

業績予想



- ◆2020年以降の事業基盤構築・事業拡大に向けた、設備投資が完了
- ◆償却前利益の最大化を目指す（目標：売上比 30%）

計画 前提

- ・年間為替レート¥110円想定
- ・原材料費の上昇
- ・半導体市況調整から回復

前年 実績

- ・年間為替レート¥110円
- ・果実酸等、価格改定
- ・電材設備投資による償却増

	売上高		営業利益		当期純利益		償却前利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020.3 計画	43,000	2.2	7,500	△19.2	5,200	△24.4	12,600	2.2
第2四半期 (実績)	20,333	△4.6	4,364	△16.8	3,013	△22.4	6,432	2.4
2019.3 実績	42,074	4.6	9,283	△11.9	6,881	4.4	12,327	1.5
第2四半期 (実績)	21,310	8.8	5,243	△3.3	3,883	3.0	6,281	3.6

2020年3月期 通期業績予想

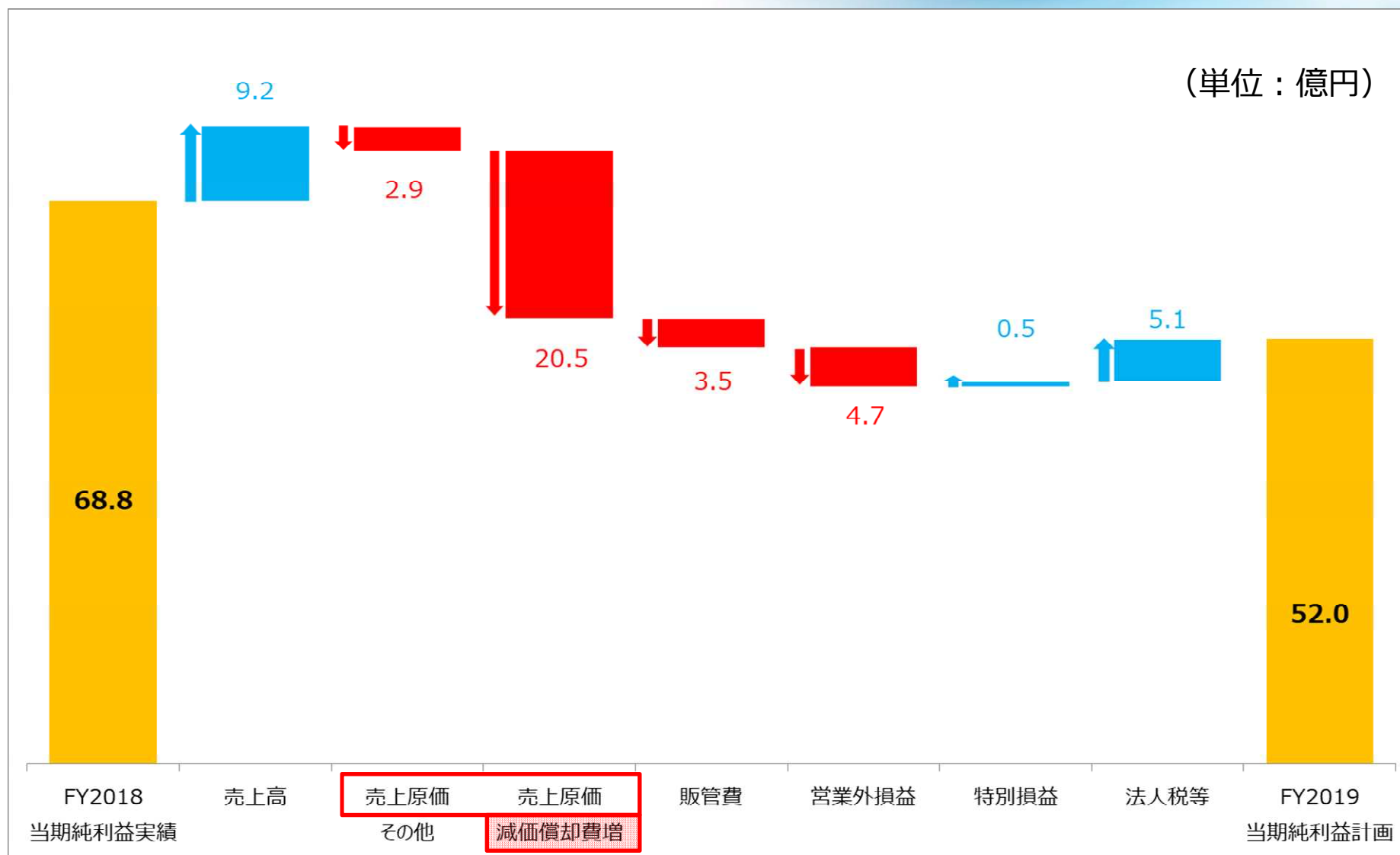


(単位：億円)	'19/3期 上期 (実績)	'19/3期 通期 (実績)	'20/3期 上期 (実績)	'20/3期 通期 (計画)
売上高	213.1	420.7	203.3	430.0
ライフサイエンス事業	128.7	252.1	123.3	258.5
電子材料および 機能性化学品事業	84.4	168.7	80.0	171.5
営業利益	52.4	92.8	43.6	75.0
ライフサイエンス事業	16.2	35.1	23.6	35.0
電子材料および 機能性化学品事業	42.2	69.6	26.1	53.0
(調整額)	△6.0	△11.9	△6.1	△13.0
経常利益	56.2	98.5	44.0	76.0
当期純利益	38.8	68.8	30.1	52.0
償却前営業利益	62.8	123.3	64.3	126.0
一株当たり当期純利益	109.3 円	193.8 円	84.8 円	146.4 円

2020年3月期計画-当期純利益増減要因



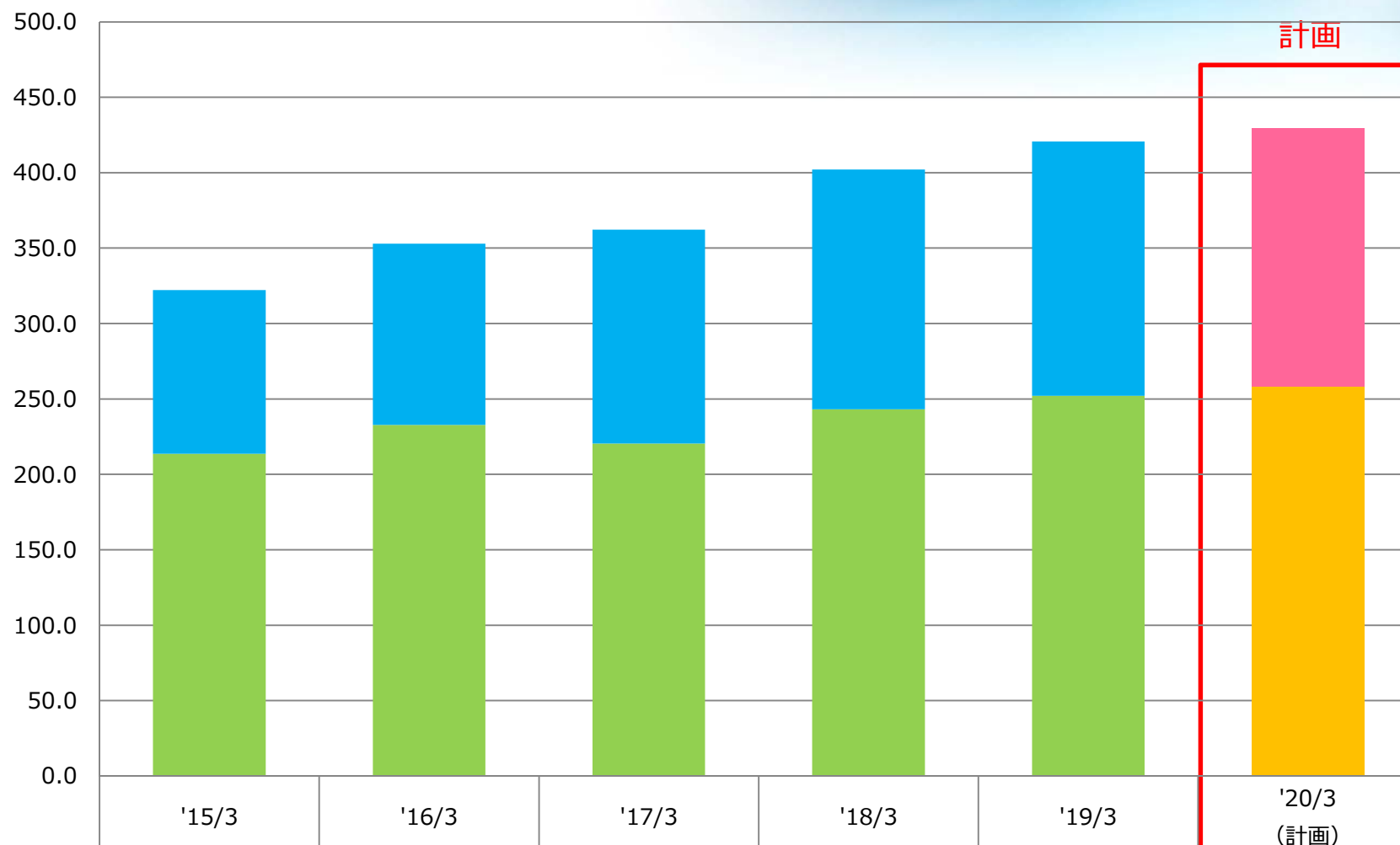
(単位：億円)



セグメント別売上高推移



(億円)

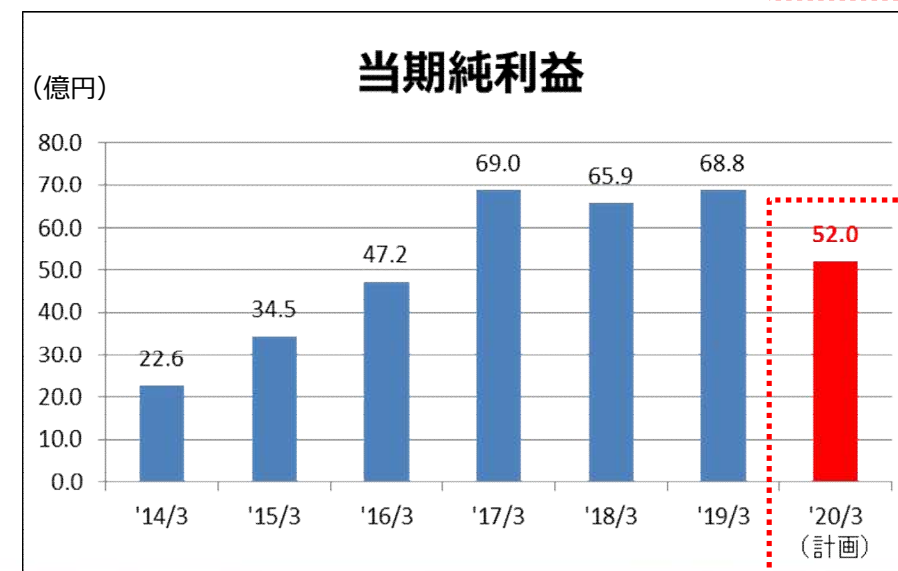
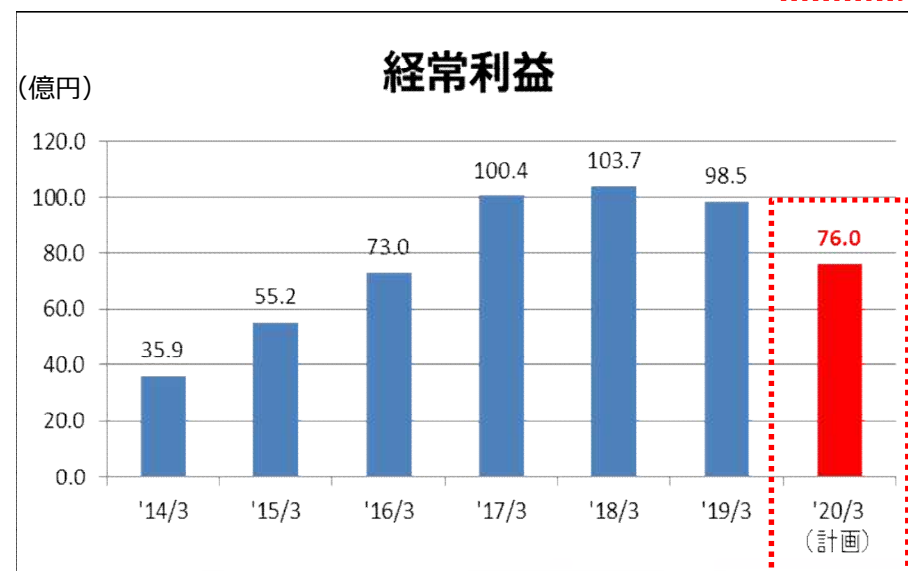
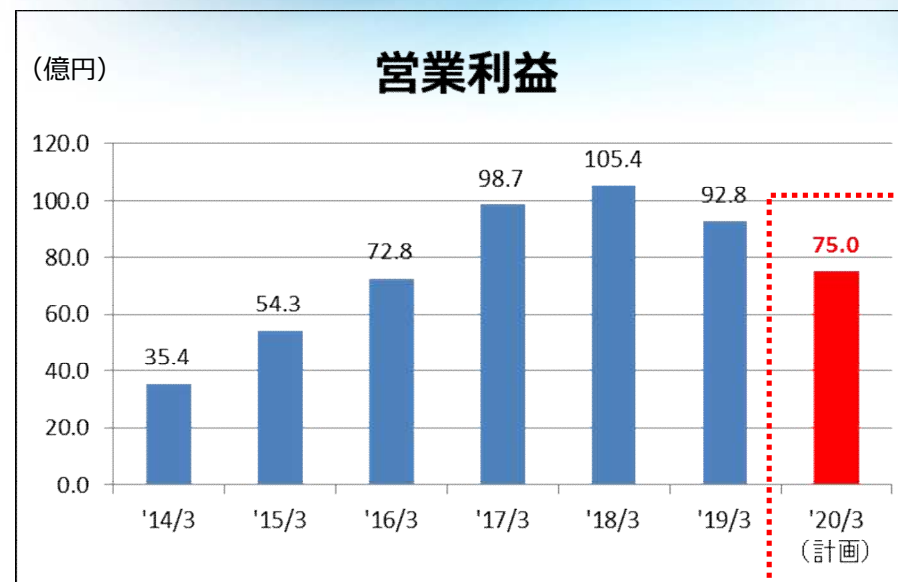
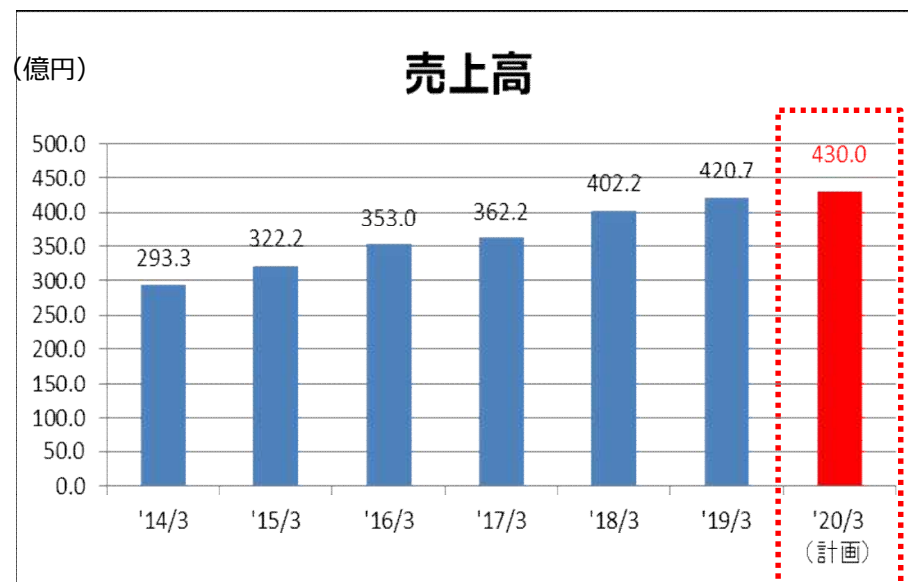


■ 電子材料および機能性化学品事業
■ ライフサイエンス事業

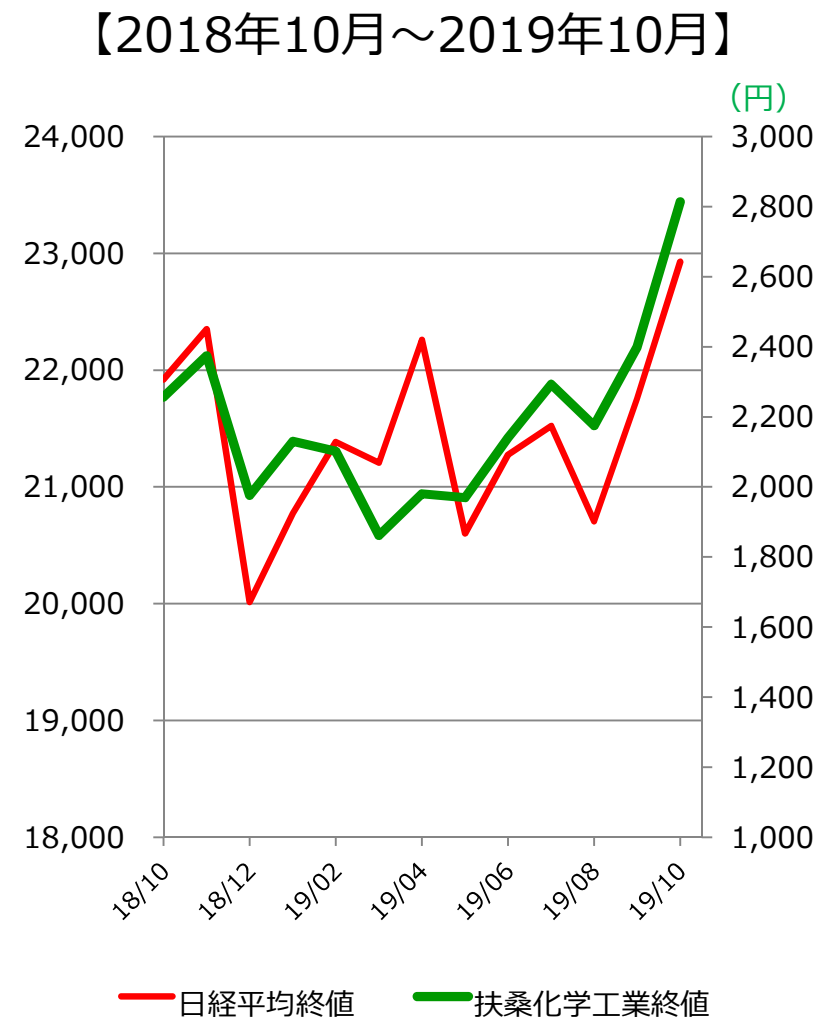
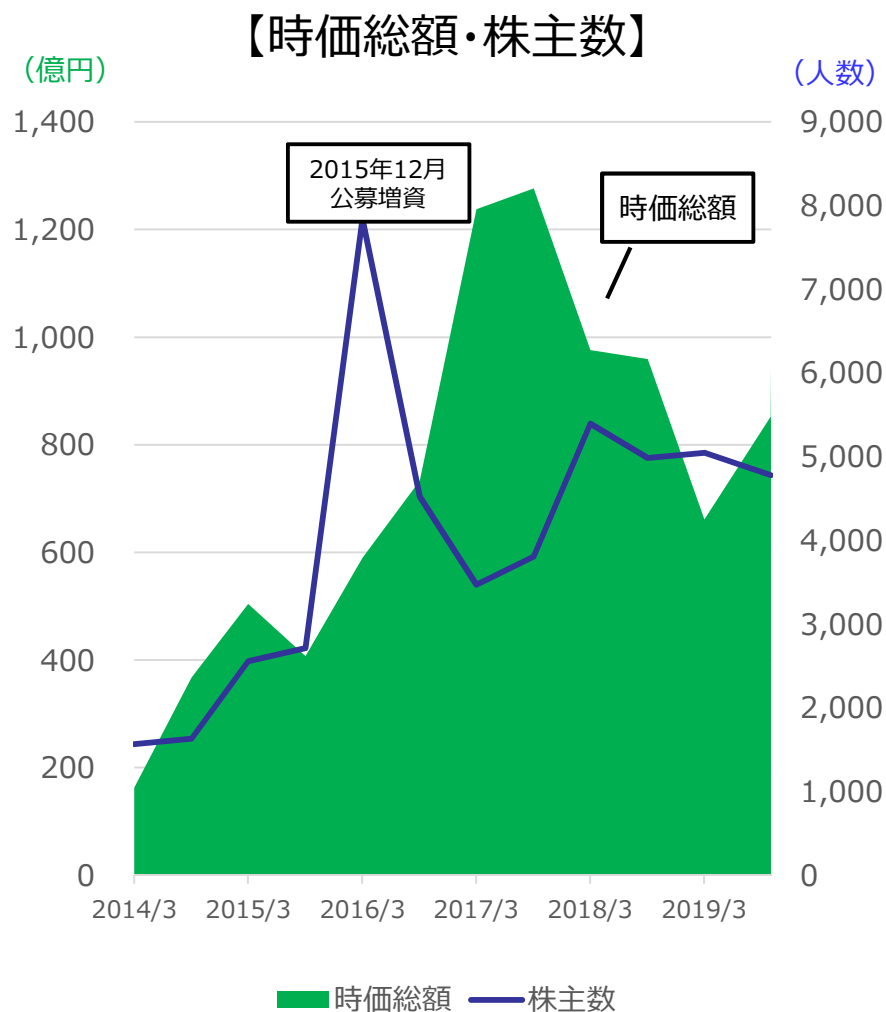
セグメント別営業利益推移



業績推移および計画

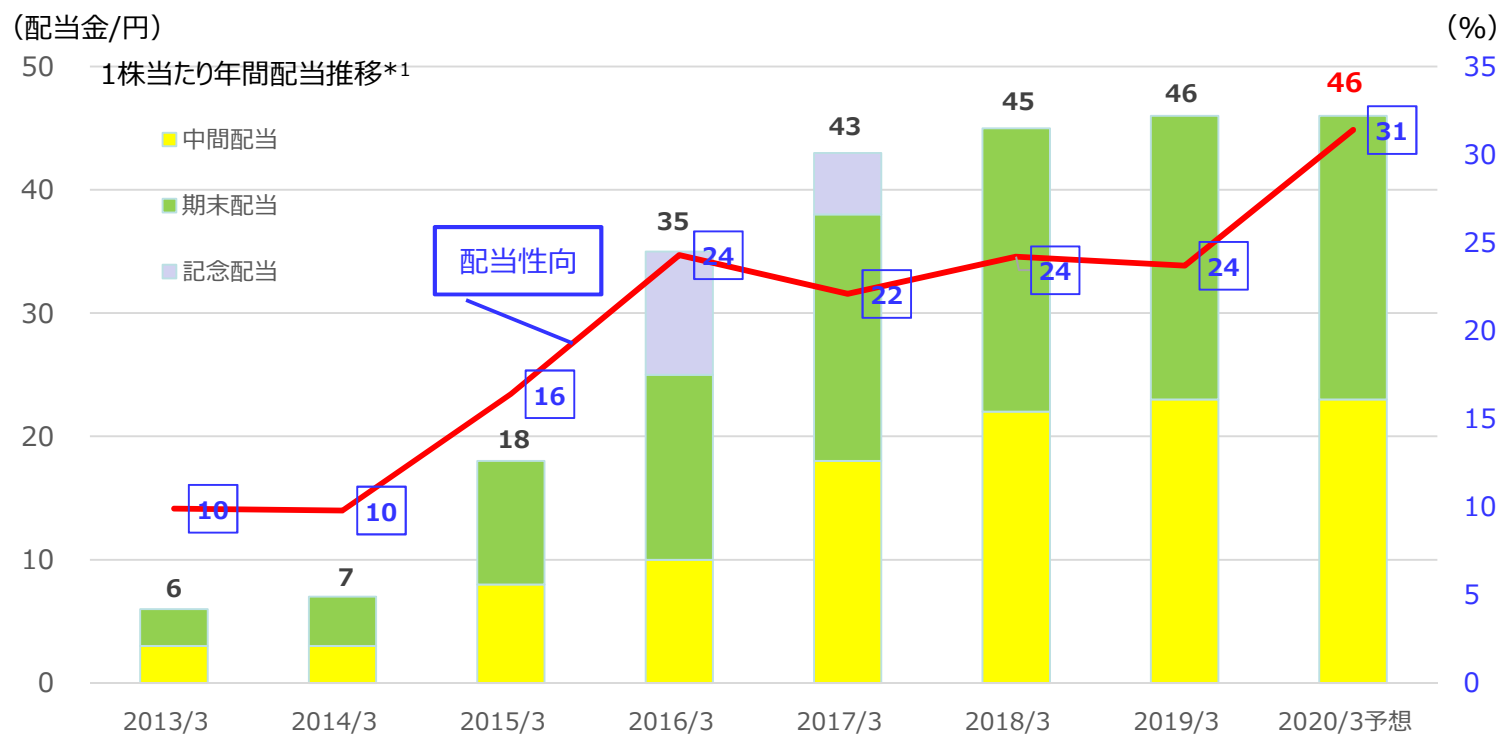


I. 株価推移



Ⅱ. 配当金

- 2020年3月期中間配当:前中間期と同額
- 2020年3月期年間配当:前年度と同額予定
- 配当性向、配当利回りを考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当実施



*1 : 2014年10月1日付株式分割 (1:5) に伴い、調整



**環境負荷を減らす
LED化を推進中**



**省エネ優良事業者（Sクラス）
KES環境マネジメント**



**WEBを活用した情報発信
新WEBページの公開
プロモーションビデオの撮影中**



本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。